

# 2023年度業務実績報告書

## 参考資料

2024年6月

愛知県公立大学法人

	ページ	関連項目番号
<b>【県立大学】</b>		
1 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」	・・・ P 1	1,2,3,8
2 「iCoToBa Nexus」プロジェクト	・・・ P 5	3
3 学士課程における新教育プログラム	・・・ P 6	4,6
4 eポートフォリオシステム	・・・ P 7	4
5 コミュニティ通訳学コース	・・・ P 8	5,6
6 学長特別教員研究費	・・・ P 10	18
7 愛県大アカデミックデイ	・・・ P 11	18
8 愛知県との連携に関する取組	・・・ P 12	22
9 県内市町村との連携事業(MAPU)	・・・ P 13	22
10 ICTリカレントコンシェルジュ	・・・ P 15	23
11 「医療・教育福祉現場を変革するエキスパート人材育成研修」	・・・ P 16	20
12 国際戦略方針に基づくアクションプラン	・・・ P 18	26
<b>【芸術大学】</b>		
13 名古屋工業大学との「アートフルキャンパス構想」	・・・ P 19	30,41
14 領域を超えた授業科目の連携(異分野のコラボレーション教育)	・・・ P 20	30
15 アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業	・・・ P 21	30,39
16 アウトリーチプロジェクト	・・・ P 22	32,42
17 美術学部デザイン・工芸科メディア映像専攻	・・・ P 24	33
18 芸術大学におけるキャリア支援	・・・ P 25	36
19 教員による芸術・研究活動の主な実績	・・・ P 26	39
20 企業、研究機関などとの連携、共同研究	・・・ P 34	40
21 アートラボあいち芸術大学連携プロジェクト	・・・ P 36	41
22 あいちアール・ブリュット	・・・ P 37	41
23 収蔵品展・収蔵品の他機関への貸出件数	・・・ P 38	42
24 サテライトギャラリー SA・KURA	・・・ P 40	43
25 芸術大学におけるブランディング・知名度向上に向けた取組	・・・ P 41	45
<b>【法人運営】</b>		
26 トップマネジメントによる予算配分	・・・ P 43	46
27 2大学による連携事業	・・・ P 44	48,55
28 スタートアップの推進	・・・ P 45	48
29 事務職員の育成(海外・他機関派遣研修)	・・・ P 47	52

## 1. 新教養教育カリキュラム「県大世界あいち学」

【県立大学】

### (概 要)

教養教育を学ぶうることこそ大学の特徴であるという考えを基礎に、「県大世界あいち学」という愛称のもとに、2021 年度から新カリキュラムを開始しました。愛知に根ざしたグローバルな視野での学び、専門教育と表裏の関係での複眼的、領域横断的な知的基盤の獲得、予測困難な新時代を生き抜く人間力の涵養、といった考えのもとに学部間連携を主軸に自治体・産業界等との連携を組み込んだ科目編成と教授体制で実施しています。特に世界の最新情勢と愛知県の独自傾向を踏まえ、多文化・多言語への理解を通じた協働能力を涵養することとし、身近に必要性が認識されるポルトガル語教育に力点の一つを置いています。また、IT・AI など技術革新の動向を踏まえてデータサイエンスなどの情報科学分野を重視しています。

特に、その中核をなす全学部連携携科目 4 科目（APU 教養コア科目、APU 教養特別科目 3 科目のうち 2 科目）と複数学部連携科目 4 科目（APU 教養連携科目 4 科目）を以下の理念の中心と位置づけ、科目全体をこれに関連づけることで、教養教育の個性を生み出しました。第三期中期目標・計画の最終年度 2024 年度が新カリキュラムの完成年度となります。

### (理 念)

人をつなぎ世界を結ぶ、愛知に根ざしたグローバルな視野をもって、次のような活動ができる素養を育む。

- ・人間性と文化について科学的な思考によって価値の相対化ができる
- ・予測困難な事態にも対応しつつ主体的に社会性をもって行動できる
- ・人権尊重や国際平和の普遍的価値に照らし、学びの英知を地域社会へ還元できる

### (目 標)

教養教育の理念を達成するため、以下のような人間力の育成を目標とする。

- A) 基本的人権と国際平和の重要性を認識し、倫理観や正義感をもって行動できる。
- B) 国際社会とその多文化の諸価値を理解・尊重できる。
- C) 文化の違いを超えた相互理解のためのコミュニケーション能力と情報発信力をもつ。
- D) 課題解決のための合理的・論理的かつ批判的・創造的な思考力を有する。
- E) 事実を客観的に分析・理解し、数理的・客観的なデータ分析ができる。
- F) 専門分野を超えた総合的な視点と考えを深めることができる。
- G) ジェンダーやセクシュアリティ、また弱者やマイノリティーに適正な理解ができる。
- H) 生きる意味を自覚し、健康的な生活を探究しつつ将来を見据えることができる。
- I) 科学技術の発展と自然界の現状を理解することができる。
- J) 災害発生等の不測の事態に対処し、主体的に行動できる。

(科目構成の構造と概要)

○ **APU 教養コア科目** (2科目)として、「多文化社会への招待」※「データサイエンスへの招待」※を1年次必修とし、本学での学びの全容を理解しつつ主体的に選択できるように促し、情報科学による裏づけをも得られるようにした。5学部教員が連携し、5学部学生が領域を超えて学び合う。

○ **4科目群**に編成し、それぞれの中心に**APU 教養連携科目** (4科目)として「グローバル社会の諸問題」※「エリアスタディーズ総論」※「ものづくりの現状と課題」※「いのちと防災の科学」※を置いた。【下記表】

○ **APU 教養特別科目** (3科目)として、「教養留学修得科目」「県大エッセンシャル」※「県大教養ゼミナール」※(選択科目)を、フレキシブルかつ積上げ式科目として置いた。

○ 外国語・キャリア教育・スポーツ実践の諸科目も、教養教育全体に含み込み、教養教育の理念のもとにあることを明確にした。

※ 全学部連携科目4科目と複数学部連携科目4科目

○ **4科目群の構成**

(1) 世界を理解する： 多文化・多言語の実際を学び社会での協働に役立てる科目群

科目の小区分	概要
APU 教養連携科目	「グローバル社会の諸問題」として、外国語学部教員を中心に、年度ごとに設定するテーマに関係深い他学部教員が連携担当する。
多文化理解	触れたことのない文化や言語に接して自国の文化や言語を見つめ直し、グローバルな場面への備えを探る。「Global Vision Talks」「Japan's Interactions with Other Cultures」「Japan Seen from Outside」といった外国語授業を主とする。
外国語科目	英語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語、ロシア語、韓国朝鮮語、日本語の各ⅠⅡと、「教養外国語ショートプログラム」を置く。
外国語セミナー	上級履修科目として英語、ポルトガル語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の各セミナーを置く。

(2) 地域を掘り下げる： 愛知・日本・世界の諸地域を身近な生活に即して理解する科目群

科目の小区分	概要
APU 教養連携科目	「エリアスタディーズ総論」として、外国語学部と日本文化学部の教員が連携して、特定地域の歴史、社会、文学、文化など多角的に探る。
愛知・日本	愛知、東海地方、日本それぞれの文学、歴史、ことば、生活を地域に根ざした文化という観点から学ぶ。
諸地域研究	現代社会について注視しつつ、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、アフリカといった世界の歴史・文化を学ぶ。

(3) 社会に生きる： 現代社会の実相を学術的に探究しつつ身近な課題を見つめ直す科目群

科目の小区分	概 要
APU 教養連携科目	「ものづくりの現状と課題」として、日本文化学部と情報科学部の教員が連携担当し、愛知のものづくり企業の協力のもと、チームでプロジェクトのテーマを設定しつつ、課題解決に取り組むプロジェクト型実践教育。
現代社会	私たちを取り巻く現代社会の仕組みや文化について、主に社会科学の手法を通して理解し、現実社会の課題を見つめつつその解決策を構想し、将来を展望して生き抜く力の基礎を培う。
キャリア・プランニング	1年次から4年次までの各段階に即して、本学で学ぶ意義を卒業後の人生行路との関係で構想する、積上げ式のキャリア教育科目群。愛知地域の産業動向や、卒業生の活躍現場などを参照する。

(4) 科学と人間を深める： 人間知の科学的探究力と心身豊かな人間性を涵養する科目群

科目の小区分	概 要
APU 教養連携科目	「いのちと防災の科学」として、教育福祉学部と看護学部の教員が連携担当し、防災・減災のための知識やスキルを学ぶと同時に、医療・教育、福祉、心理の観点からさまざまな立場の人のいのちを守ることにについて思考を深める。
自然科学	自然現象と人類科学から見出される普遍的な法則性探究の歴史を背景に、私たちを取り巻く現在と今後の課題解決について考える。
人文科学	哲学、心理学、文学、芸術鑑賞・表現に関わる人間諸活動の叡智に触れ、人類の文化や歴史の本質と価値を探りつつ自らを省察する。
情報科学	IT・AIなどの技術革新の動向を見きわめ、情報科学の技術と倫理を身につけ、次世代を展望しつつ主体的に生きる方法を身につける。
スポーツ・健康科学	生き方と心身との関係、健康づくりの科学的方法、などを学術的・実践的に学び、主体的な生涯スポーツ実践たることを目指す。

2021年度より開講しているAPU教養コア科目「多文化社会への招待」では、中間評価に基づき、以下の通り改善と確認をおこなった。

■コロナ禍のためオンラインでおこなったグループワークについて、学生アンケートで不満が寄せられていたが、本年度は授業を対面で実施できたため、不満が解消された。

■FDにおける検討を踏まえ、多人数の教員が関わることから生じる成績評価における不均衡を避けるため、評価における共通の基準を設定した。

■学生による「ふり返り」のコメントを見ると、他学部について知れたこと、他学部の教員や学生と関わったことに満足感を感じている学生が多い。また、所属学部が異なると考えも様々であること、同じ学部に所属していても意見が同じとは限らないこと等が強く印象に残ったようである。他

学部の専門を知る貴重な機会になったという意見も多く、全学部連携科目としての授業目的は概ね達成されている。

同じく 2021 年度より開講している「データサイエンスへの招待」では、2022 年度に行った企業からの外部評価も学生アンケート結果も、共に高評価だったため、大きな改善は行わなかったが中間評価に基づき、以下の改善をおこなった。

■2022 年度一部導入して学生アンケートで高評価だった反転授業を事例紹介の回では全面的に導入することを決定し、実施した。

■不規則な学年暦によって生じた課題締め切りに対する不公平感について、締め切りを延ばすなどの対策を講じた。

■一部授業回で、コメントスクリーンの使用を試行した。

## 2. 「iCoToBa Nexus」プロジェクト

【県立大学】

### (概 要)

社会との連携に役立つ語学運用能力やコミュニケーション能力の向上を支援するため、正規の課程外の学習プロジェクトとして、2023年度より開始することを決定しました。

地域貢献と発信型教育を目指す同プロジェクトは、大学院国際文化研究科コミュニティ通訳学コースと連携し、災害時を含む公共サービスにおける実践的な通訳訓練を行うことを目的としたプログラムと、現代の視聴覚メディアを利用して、地域社会の課題解決を提案するメディア・プロダクションを行うプログラムとの、二つの軸からなるプログラムを立案しました。

#### ・「コミュニティ通訳入門講座」

国際文化研究科コミュニティ通訳学コースとの連携により、日本人学生、留学生がともに参加して、災害時に外国籍住民を支援することを目的とした多言語支援センターを立ち上げるために必要なコミュニティ通訳・翻訳のノウハウを学びます。

#### ・発信型メディア講座

##### ー メディア制作ラボ (Language Media and Culture Laboratory)

学生主導で、世界や地域の課題を発見し、その解決策を検討し、その成果を動画などのメディア作成を通じて世界や地域社会に向けて発信

##### ー 文化批評・メディア批評講座

上記 メディア制作ラボと並行して、新メディアに関する倫理や批評的視座を獲得することを目的とする。毎回テーマを変えながら、さまざまな文化的ジャンルを横断的に扱う討議型講座

### 3. 学士課程における新教育プログラム

【県立大学】

(概要)

(1) 日本文化学部新教育プログラム“世界へ発信する日文カリキュラム”

2024年度入学生より実施する日本文化学部新教育プログラムは、世界の中の日本の歴史・文化とは何かを考え、多角的な視点から私たちの世界を考えるカリキュラムで構成されています。

歴史文化学科の新しいプログラムは、歴史学だけでなく、高校の地理・歴史・公民全科目の学びを深め、発展させることができるよう、三つの視点とコースによる科目構成としています。

歴史文化学科の三つの視点とコース

- ・歴史に即した視点（歴史文化学コース）
- ・現代社会を見据える視点（社会文化学コース）
- ・世界の異文化と比較する視点（比較文化学コース）

三つのコースの科目を自由に選択しながら、徐々に自分の専門領域を見定めていくカリキュラムで、広い知識と探究力を身につけます。

日本と世界を歴史学の方法で探究し、現代社会の諸相を社会学・地理学・法学などの複眼的方法で考察し、他地域・文化との比較を繰り返しながら、人間の歴史・文化・社会の将来を創造的に展望する見識と実践力を獲得することを目指します。

#### 歴史文化学科の新カリキュラム【2024年度～】

1・2年で歴史文化学・比較文化学・社会文化学コースの様々な科目を履修し、3年で自分の専門を絞り、4年で卒業論文をまとめます。

学部共通科目	学科共通科目	資料学	歴史文化学	比較文化学	社会文化学	教養・関連科目
1年 【必修】 日本文化概論 【選択】 ・比較文化史 ・世界の中の日本のことば・文学 演習・文化・くらしの特別研究	【必修】 歴史文化学入門		① 歴史文化学概論 【選択】 ・日本史概説 ・歴史学（美術） ② 歴史文化学基礎演習Ⅰ・Ⅱ	① 比較文化学概論 【選択】 ・世界史総論 ・世界史各論 ・比較社会論 ・社会思想史 ・現代思想論 ・文化人類学 ・文化人類学総論 ② 比較文化学基礎演習Ⅰ・Ⅱ	① 社会文化学概論 【選択】 ・メディア論 ・地域文化論 ・歴史社会学 ・現代日本社会論 ・地誌 ② 社会文化学基礎演習Ⅰ・Ⅱ	【必修】 教養教育科目 【希望者のみ】 履修に関する科目 ・教職：中学社会 ・教職：高校地理 ・学芸員  (教職：高校公民) (司書教諭) (日本語教員)
2年 演習・文化・くらしの特別研究	【選択】 ・近世文書演習 ・古代・中世文書演習 ・資料調査法 ・外国語文献講読	③ 歴史文化資料学(歴史文化)Ⅰ・Ⅱ ④ゼミ 歴史文化学演習(山田・列山・クラマ)	【選択】 ・歴史地理学 ・比較考古学 ・歴史学(史学史) ・歴史学(地域) ・歴史学(比較) ・歴史学(社会) ・歴史学(思想・宗教)	③ 歴史文化資料学(比較文化)Ⅰ・Ⅱ ④ゼミ 歴史文化学演習(引田・内記・新井)	【選択】 ③ 歴史文化資料学(社会文化)Ⅰ・Ⅱ ④ゼミ 歴史文化学演習(伊藤・栗田・藤野)	【選択】 ・人文地理学 ・日本民俗学 ・地域社会学 ・家族社会学
3年 【必修】 卒業論文						

演習 概論・演習 講義 概論・演習 講義 概論・演習 講義

- 1年前期 学部共通科目と学科共通科目（歴史文化学入門）を履修します。  
後期 各コースの概論（①）から2科目以上、基礎演習（②）から2科目を選択します。
- 2年 各コースの歴史文化資料学（③）から前期1科目、後期1科目を選択します。  
①～③は、同じコースの科目を履修しても、異なるコースの科目を履修しても自由です。  
2年次から履修できる資料学では、文書演習、現地調査、外国語文献講読により、基礎的な研究能力を養います。  
1年次から自らの関心に従って、多彩な講義科目の中から自由に選択し、徐々に希望するゼミを決めてください。
- 3・4年 歴史文化学演習（④ゼミ）から1つ選択し、4年間の集大成として卒業論文をまとめます。



## 4. eポートフォリオシステム

【県立大学】

### (概要)

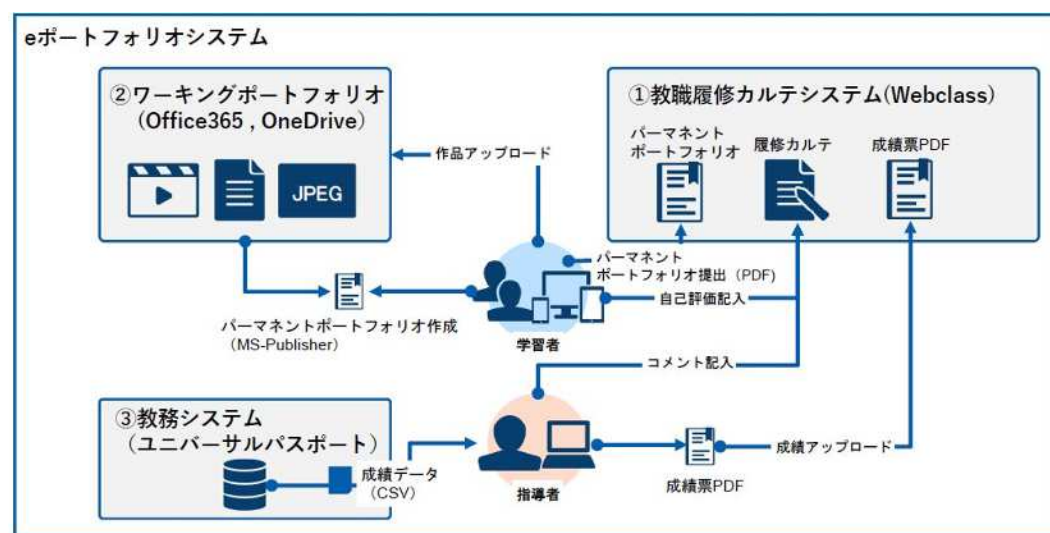
ポートフォリオは学びの成果をまとめたファイルのことです。学修について、そのプロセスも含めて記録・可視化することで、学生が学びの成果を確認し、学修計画の修正や立案に役立てるとともに、教員も学生の学修状況を踏まえた評価や指導を行うことが可能となります。ポートフォリオは学修者本位の教育や教育の内部質保証において重要なツールと言えます。

eポートフォリオシステムは、ポートフォリオや学修記録をオンライン上のシステムで電子的に管理することで、学びと教育の更なる充実及び学生と教職員双方にとっての利便性の向上を目指すものです。システムは「①履修カルテシステム」と「②ポートフォリオシステム」から成ります。①は学習や活動の記録や振り返り等を記入するためのもので、既存のLMS製品(Webclass)を利用します。教務システムより出力した成績データを読み込ませることで関連科目の成績を一覧で確認したり、レーダーチャートによる視覚的な振り返りも可能となっています。

②は学修の成果物をまとめ、閲覧するためのものです。こちらは紙媒体のポートフォリオを導入している小学校コース(教育福祉学部教育発達学科)の学生のみを対象としています。教職課程の学修では、レポートやノート等のテキストを中心としたファイルだけでなく、作品の画像や模擬授業の動画など多様なフォーマットによる成果物があり得ます。これらを容易且つ包括的に扱えるLMS製品が存在しないことから、Office365製品を利用した独自のポートフォリオシステムを構築しました。作品集のように閲覧できるポートフォリオとなっていることが特徴です。

本学においては、2023年度中に教員免許状の取得を目指す教職課程を履修する学生(幼稚園課程を除く4年生及び3年生)を対象として、教職eポートフォリオシステムを先行導入しました。2024年度は幼稚園課程以外の教職課程を履修する全学生へ対象を拡大する予定です。

また、2024年度中に全学で学修成果に基づくDP達成状況の可視化(UNIPAのポートフォリオ機能を利用)の開始が予定されています。教職課程における先行導入の結果から、ポートフォリオの有効活用においては教職員側の理解と支援体制の構築が重要になることが示唆されたため、可視化に必要な成績の定量化の作業と並行して、各学科・専攻における支援体制について検討を行っていく予定です。



## 5. コミュニティ通訳学コース

【県立大学】

### (概要)

コミュニティ通訳は、医療、司法、教育、行政、福祉等の領域で実践され、日本語を母語としない人の基本的人権を保障するために必要な通訳です。

愛知県に暮らす外国籍住民は、約 30 万人で東京都（約 63 万人）に次いで全国第 2 位であり（2023 年 6 月時点）、役所、病院、学校、警察、雇用相談、法律相談、防犯・防災活動など、さまざまな場面で多言語対応が求められています。コミュニティ通訳には語学力に加えて関連分野の知識や高い倫理観が求められ、その指導を行える人材は限られているにもかかわらず、体系的な教育を行っている大学はほとんどありません。

こうした現状を踏まえ、コミュニティ通訳に関する知識やスキルを体系的に学び、高い専門性を有する人材を育成することを目的として、国際文化研究科国際文化専攻にコミュニティ通訳学コースを設置しました。

### (育成する人材像)

1. 専門性を持つプロフェッショナルなコミュニティ通訳者  
(医療、司法、教育、行政、福祉等の分野に必要な知識、異文化理解力、通訳者倫理を身につけた専門家)
2. コミュニティ通訳コーディネーター  
(専門知識と語学力を持ち、通訳者とユーザーの間を調整し、社会インフラとしてのコミュニティ通訳を効果的に機能させる人)
3. コミュニティ通訳分野における指導者、研究者となる人

### (コースの特徴)

カリキュラムには「理論」「実践」「研究者としての能力」の 3 要素を含み、多文化共生論、通訳理論や現場実務に関する知識、事例研究を含むコミュニティ通訳研究、言語別演習、実務実習、アカデミック・プレゼンテーションに関する科目があります。主な指導言語は日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語で、人間発達学研究科や看護学研究科の一部科目を履修することも可能です。通訳現場の実務的知識を身につけるため、愛知県教育委員会、医師会、弁護士会、愛知県警等からの講師派遣のほか、名古屋地方検察庁において検察官からの説明、名古屋地方裁判所において要通訳裁判の傍聴および裁判官からの説明を受けるなど、外部機関と連携した授業も実施しています。さらに、遠隔通訳や機械・AI 翻訳などテクノロジーの活用と倫理も学びます。

複数の大学院生と教授陣で構成する「合同ゼミ」において、修士論文（または特定課題研究成果）の執筆に向けた指導を行います。また夜間や土曜日、オンライン等も指導に活用することで社会人にも配慮しています。

### (2023 年度実績)

完成年度を迎え、2 年次必修科目「コミュニティ通訳実習」を学内外の協力を得て実施し、初の修了生 3 名を輩出しました。また、「コミュニティ通訳学講演会シリーズ第 1 回」を実施し、「コミュニ

「多言語通訳実習」の枠組みで以下の活動を行いました。

- ・学内での活動

UNHCR 難民映画祭パートナーズ上映『ナディアの誓い—On Her Shoulders』

本学の防災訓練における「AED 救命講習」（パナガイドによる多言語通訳）

- ・学外機関との連携

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター

大嶽法律事務所

愛知県警察

愛知県国際交流協会

## 6. 学長特別教員研究費

【県立大学】

### (概 要)

専任教員の学術研究を奨励し大学の発展に寄与するため、学長が予算の範囲内で選考・交付する学内の競争的研究費です。学内の分野横断的共同研究や産学公連携による研究を推進する者を対象とする「学部間連携・産学公連携研究」及び、本学の特色や強みを打ち出すことを目的とした研究を推進する「地域課題研究」の区分で1件の採択を行ったほか、独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成事業に応募し、不採択となった者を対象とする「科研費採択奨励研究」で8件、従来の自身の研究とは異なる新しいテーマに挑戦する者を対象とする「チャレンジ研究」で2件、そのほかの区分も合わせ計12件の採択を行いました。

### (「地域課題研究／学部間連携・産学公連携研究」採択実績)

研究課題名：「多文化共生社会構築のための学際的な基礎研究

(多言語多文化防災と災害時コミュニケーションを中心に)」

研究者：多文化共生研究所所属教員

採 択 金 額：310 千円

内 容：外国人住民を含めた「多言語・多文化」的な視点で防災・減災について検討することを目的とし、①外国人住民に対する日常的な防災意識の啓発方法、②災害発生の可能性が高まった場合の多言語情報発信、③避難所運営や被災者ケアにおける多言語・多文化的視点、④外国人住民を含めた地域防災力を高める人材育成のあり方、等の課題に取り組む。

学長特別研究費の募集及び選考等に関して意見を求めるために学長が設置する「学長特別研究費アドバイザー会議」において、さらに利用者に使いやすい仕組みとするための検討を行い、次年度の募集要項を一部変更し、「地域課題研究」のテーマを特定しないこととしました。これにより、公立大学としての役割も踏まえつつ本学の特色や強みを打ち出すことを目的として、地域課題に取り組む研究を推進することが可能となります。

## 7. 愛県大アカデミックデイ

【県立大学】

((概要))

従来、開催してきた「教員研究発表会」や「ポスター発表会」の企画を拡大し、2021年度から発足した新研究所・プロジェクトチームの研究成果報告と併せて「愛県大アカデミックデイ」という企画として開催しました。

(Day 1)

主催：学術研究情報センター

開催期間：令和5年12月13日(水)～12月20日(水)

開催方式：Teamsによるオンライン開催・学内限定公開

閲覧回数：246回

内容：研究成果を広く共有する目的で実施する教員研究発表会

備考：チャット欄を活用し、教職員と発表者が直接意見交換や質疑応答を行う機会を創出

(Day 2)

主催：地域連携センター

開催期間：令和6年3月1日(金)～3月7日(木)

開催方式：オンデマンド配信

閲覧回数：274回

内容：教員による自由スタイルの研究発表

公開講座\_県大アゲイン録画配信

地域連携活動の紹介

愛知県立大学リカレント教育推進事業紹介

アカデミックデイ・アーカイブ再配信\_退職記念発表

アカデミックデイ・アーカイブ再配信\_ドクターズ・リターン

アカデミックデイ・アーカイブ再配信\_研究所紹介

愛県大史ダイジェスト動画

## 8. 愛知県との連携に関する取組

【県立大学】

(概 要)

愛知県との連携（事業の共催、ボランティア活動の学生等への協力依頼、審議会等委員への就任、愛知県立大学のキャンパスの利用、イベントへの参加・出展等）を一層推進するために、愛知県庁 10 部局（同一部局でも内容が違う場合は別部局として累積）と地域連携に関する会合（来学 11 回・意見交換会 5 回）を実施しました。こうした会合の結果、2023 年度は以下の表の通り、事業の実施につながりました。

	形態	実施回数 (部局数)	新規に実施した共催事業・ 地域貢献活動(*4)	継続して実施した共催事業・ 地域貢献活動(*5)
地域 連 携 に 関 する 会 合 ・ 共 催 事 業 等	訪問(*1)	—  〔 右記は昨年度 訪問の結果実施 〕	・性暴力被害防止セミナー (2022 年度実績報告にて計 上済み)	・あいちシルバーカレッジ専 門コース ・愛知県地域づくり活動フォ ーラム ・東部丘陵生態系ネットワー ク協議会
	来学(*2)	11 回(7 部局)	・高大連携・探究的な学び・ 国際バカロレアに関する学 内意見交換会 ・学生の県営住宅に関する学 内意見交換会 ・リカレントフォーラム ・認知症県民フォーラム ・認知症ステップアップ研修 会	・愛・地球博記念公園との連携 活動 ・わくわく体験リニモツア ーズ ・あいち認知症パートナー大 学 ・知の探究講座
	意見交換 (*3)	5 回(3 部局)	・学術講演会（副知事によ る講演）  (参考) 連携講座 2024 年度実施予定	
	計	16 回(10 部局)		7 件

(\*1) 訪問：ニーズ把握のため地域連携センターが県の関連部署を訪問  
(場合によってはオンライン会合)

(\*2) 来学：事業等の要請のため県の各部署が地域連携センターに来学  
(場合によってはオンライン会合)

(\*3) 意見交換：県の関連部署と本学の複数の関連学部・研究所等が関わって、具体的な共催事業  
や地域貢献活動の実施に向けて検討するために設ける会合  
(場合によってはオンライン会合)

(\*4) 共催事業・地域貢献活動：訪問・来学・意見交換会によって実現した、当該年度の新規  
共催事業あるいは地域貢献活動（協定締結、審議会委員等への協力、学生ボランティア  
活動は除く）

(\*5) 第三期中期計画期間中に実施した会合により開始し、当該年度も継続して実施した共催事業  
あるいは地域貢献活動

## 9. 地域課題の解決を目指す取組 (MAPU)

【県立大学】

### (概要)

「少子高齢化」や「人口減少」などの様々な地域課題が挙げられる中で、行政機関、教育機関、地域コミュニティ、ボランティア・NPO等の学外組織・団体から、大学に対して、課題解決への期待が寄せられています。これに対して、地域連携センターを中心に、教員の研究成果、経験知等を課題解決のヒントにつなげるために、市町村における課題を教職員とシェアする「場」(オンライン)を試行的に設けています。インタビュー形式で、組織・団体の皆様から直接課題についての具体的に説明をいただく機会として、「MAPU (マップ)」と称した意見交換会を開催しています。

### (1) 【2023年度 MAPU 愛知県県営住宅管理室×愛知県立大学】

日時：2023年11月15日(水) 16:00～17:00

開催方法：対面・オンライン (Zoom ウェビナー)

タイトル：2023年度 MAPU 「どうする県営住宅？」

ゲスト：愛知県建築局公共建築部公営住宅課県営住宅管理室

学内参加者：30名 (会場：11名、オンライン：19名)

概要：昨今、「入居者の高齢化や単身化」や「団地の活性化」など全国的に県営住宅を取り巻く環境は厳しさを増していると言われるなか、愛知県ではどうなのか、インタビュー形式で直接課題を説明

### (2) 【2023年度 MAPU トヨタ紡織株式会社×愛知県立大学】

日時：2023年12月27日(水) 16:00～17:00

開催方法：対面

タイトル：2023年度 MAPU 「どうするカーシート？」

ゲスト：トヨタ紡織株式会社

学内参加者：20名 (対面のみ)

概要：現在開発中の高齢者向けカーシートを実際に拝見し、必要なニーズと合致しているのか、必要とされている機能は何なのかを議論

### (3) 【2023年度 MAPU 愛知県立津島高校×愛知県立大学】

日時：2024年2月7日(水) 15:00～16:30

開催方法：対面・オンライン (Zoom ウェビナー)

タイトル：2023年度 MAPU 「どうするバカロレア？」

ゲスト：愛知県立津島高校、愛知県立時習館高校、愛知県立西尾高校、  
愛知県教育委員会あいちの学び推進課

学内参加者：26名 (会場：9名、オンライン：17名)

概要：国際バカロレア導入を目指す各高校に、進捗状況や現在抱えている課題をインタビュー形式で説明

## MAPU (マップ)

MAPU… Meeting on A Problem-solving Unit 又は Make A Problem-solving Unit の略。

自治体の課題や連携希望等を取りまとめ、学内で共有しながらその解決を図る取組の呼称

また「Re」にあたる”R”をつけて、逆に学内の教職員から自治体や企業、団体等との連携希望を集約し、地域連携センターがその橋渡し（ハブ機能）として機能させる取組も計画している。



## 10. ICTリカレントコンシェルジュ

【県立大学】

### (概要)

情報科学部では2021年12月から、社会人、団体、企業等を対象とした「ICTリカレント教育コンシェルジュ」をスタートしました。

社会人の方々の場合、学習歴、背景知識、学習上の悩み、身につけているスキル、学習の目標等は多種多様と考えられます。したがって、学び直しにおいては、様々な学習の個性に合わせた学び方が不可欠と考えられることから、個別面談を通じたニーズの把握により、相談者に応じた適切な学びの提案を行うことを目指します。

2023年度は、以下のとおりサービスを実施しました。

### (2023年度の実施内容)

【方法】 個人面談によるカウンセリング

【日時】 相談者とスケジュール調整

【費用】 無料

【場所】 対面の場合：愛知県立大学長久手キャンパス  
遠隔の場合：オンライン(Zoomを使用)

【相談員】 教員4名が対応

【相談内容】 ① ICTリカレント教育についての相談

② 愛知県立大学が提供している学ぶ制度の紹介  
(学部・大学院入学制度、科目等履修生制度など)

③ 企業におけるICT人財プラットフォーム構築

④ 組織内研修会のための講師派遣依頼

⑤ 中学校におけるデータサイエンス教育設計への支援依頼

⑥ マッチングツール開発に相談、仕様書策定への協力依頼

⑦ 愛知県立大学で企画調整できる講座等の紹介、情報提供

【申込方法】 専用メールフォームから申し込み

【相談件数】 14件(10団体、4個人)

## 11. 「医療・教育福祉現場を変革するエキスパート人材育成研修」

【県立大学】

### (概要)

本学が実施するリカレント教育事業「医療・教育福祉現場を変革するエキスパート人材育成研修」は、デジタル技術も駆使しながら、医療・教育福祉現場の課題を明確にし、多職種連携を図りつつ課題解決に向けて現場に変革をもたらすことができるエキスパート人材として、スクールソーシャルワーカー及びスーパーバイザーと、クオリティ・マネジメントリーダー（※）にターゲットをあてて育成を図ることを目的に、本学初のリカレント教育事業として10月からスタートいたしました。

（※クオリティ・マネジメント・リーダー：環境の変化が激しい現代の医療実践現場において、多職種連携での課題解決に中心的役割を担える人材（本学での呼称））

本学大学院の人間発達学研究所・看護学研究所が持つ教育リソースを駆使し、自由な時間・場所で視聴できるオンデマンド講座を中心に、様々なニーズに合わせた各種コース・プラン（コースA・5プラン、コースB・3プラン）を用意するとともに、多職種人材が共同で学び実践できる講座を開講しました。

なお、本事業は、令和4年度文部科学省「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」（メニューC:各分野のエキスパート人材育成に向けたプログラム開発・実施）に採択されています。

### (2023年度の実施内容)

#### (1) 開講講座

##### ・コースA

コース名：『医療分野に強いスクールソーシャルワーカー及びスーパーバイザーの育成』

講座概要：子どもや学校を理解するだけにとどまらず、医療分野の知識を持ち、デジタル技術を含む情報収集・分析のスキルを高め、学校の教職員や関連機関と連携して課題解決の計画を立て実践できる力を育てるもの。（受講者属性：社会福祉士資格保有者、教員、スクールソーシャルワーカー等）

プランA-Iについては履修証明プログラム（※）として実施。

（※履修証明プログラム：主に社会人を対象とした一定のまとまりのある学習プログラムを開設し、その修了者に対して学校教育法に基づく履修証明書（Certificate）を交付するもの。

総時間数 60 時間以上であることが必要）

##### ・コースB

コース名：『医療の現場を支え看護の質を高めるクオリティ・マネジメントリーダーの育成』

講座概要：看護学研究所・人間発達学研究所といった本学の持つ教育リソースを駆使し、多職種連携場面で中心的役割を果たし、看護サービスの質保証に寄与できるクオリティ・マネジメントリーダー（※）を育成するもの。（受講者属性：看護管理者等）

両コース全プランとも2月末日に講座を終了し、各受講者に対し履修証明書、修了証等を発行しました。

(2) 受講者数等

プラン (受講方法) (総受講時間・受講料)	募集期間	募集 定員	受講者数 (申込者数)	開講期間
A-I (オンデマンド・ライブ・対面) (60時間・48,000円)	9/4(月)～9/14(木) 〔事前審査 8/7(月)～8/28(月)〕	10名程度	12名	・10/20(金)～2/29(木)
A-II (オンデマンド・ライブ・対面) (24時間・36,000円)	9/4(月)～ 9/14(木)	10名程度	11名	
A-III (オンデマンド) (24時間・20,000円)	当初 9/4(月)～11/30(木) 再募集 12/5(火)～1/31(水)	なし	13名	・10/20(金)～2/29(木)
A-IV (対面) (6時間・6,000円)	9/4(月)～ 11/30(木)	10名程度	2名	・12/17(日)
A-V (対面) (6時間・6,000円)	当初 9/4(月)～11/30(木) 再募集 12/5(火)～1/31(水)	10名程度	4名	・2/18(日)
B-I (オンデマンド・対面) (21時間・30,000円)	9/4(月)～ 9/18(月) 〔当初締切日 9/14 (木)から延長〕	20名程度	12名	・10/3(火)～12/16(土) (10/2リエンテーション実施)
B-II (オンデマンド) (5時間・7,500円)	9/4(月)～ 11/30(木)	なし	10名	・10/3(火)～2/29(木)
B-III (オンデマンド) (5時間・7,500円)		なし	8名	・10/3(火)～2/29(木)

A：医療分野に強いスクールソーシャルワーカー及びスーパーバイザーの育成

B：医療の現場を支え看護の質を高めるクオリティ・マネジメンントリーダーの育成

## 12. 国際戦略方針に基づくアクションプラン

【県立大学】

(概要)

2019年の「国際戦略方針」に基づき、2020年には教育、研究、環境の3領域に跨る10項目のアクション対象分野を設定し、計41の活動から成る「アクションプラン」を公開しました。2022年度は次第に国際交流活動が再開されたことから、関連するアクションに取り組むとともに、アクションプランの2年間の達成状況に関する検証をおこないました。

### (1) 海外留学と異文化間教育の活性化 (教育)

- I 異文化共感力を高めるための学内教育
- II 多様な文化的背景をもつ学生の受入と教育支援
- III 違いを認め合い国際平和に資する異文化間教育
- IV 充実した留学を実現するための体制

### (2) 専門分野を横断する国際的研究への挑戦 (研究)

- V 国際学術交流の新展開
- VI 国境を越え専門を横断する研究体制
- VII 地域と共に生み出す多文化共生社会

### (3) さらに国際化を目指す大学づくり (環境)

- VIII 教職員の国際化とグローバル社会への対応能力
- IX 魅力ある大学国際戦略の策定と実行
- X 異文化間交流のための学内環境整備

(国際戦略方針に基づく2023年度の取組内容) \* (カッコ)内はアクション対象分野項目番号。

#### 1. 再開されつつある国際交流活動

危機管理の観点から、多言語対応の留学生支援体制は整えられつつあります(II)。今年度は筑波大学主催の日本留学海外拠点連携推進事業(南米)に採択され、ブラジルとペルーでの留学フェアに現地参加し、大学紹介や模擬授業をおこないました(IV)。韓国、タイ、スペインなどの協定校とオンラインで交流が実施され、ラオスやベトナムでは現地での研修や学術交流も再開されました(V)。海外の研究者を構成員に迎える学内の研究所(ICTテクノポリス研究所、人間の尊厳と平和のための人文社会研究所)では、スタートアップや人文社会の分野での定期的な交流が現地やオンラインで継続的におこなわれ、タシケント国立東洋学大学主催のオンライン国際会議では教員が研究成果を発表し、3年連続での参加となりました(V)。すでに連携関係にある在名古屋ブラジル総領事館やウズベキスタン大使館に加え、アイルランド、メキシコ、ポルトガルなどの大使館との関係も生まれつつあります。とりわけ、外交関係樹立30周年を記念して、ウズベキスタン政府が本学教員3名と6名の学生を同国に招聘した事業は、共同教育と国際交流を大きく進めるものとなりました(VII)。

#### 2. アクションプランの達成状況に関する中間報告

学内の各部局での積極的な取組みによって、かなりのアクションは着手されていますが、その具体的な展開や進展という点からは、なお取り組むべき課題が残っています。

### 13. 名古屋工業大学との「アートフルキャンパス構想」

【芸術大学】

#### (概要)

本学は、名古屋工業大学と「アートフルキャンパス構想」を共創し、2021年度から「F+Project-御器所が丘にアートの風を-」と題したアートプロジェクトを実施しており、2022年4月に包括的連携に関する協定書を締結しました。

本構想は、名古屋工業大学において、『心で工学』のプラットフォームとしてのキャンパスづくりの一環として、アートによる風をキャンパス内に取り入れ、芸術に親しむことによって、学生及び教職員の豊かな感性を育む「アートフルキャンパス構想」と、愛知県立芸術大学による、現代の多様化した芸術表現が、社会とふれあう機会をより多く創出させたいという願いが一致して実現したものです。

#### (内容)

- (1) 「F+ART」プロジェクトにおいて、名古屋工業大学のキャンパスに5点の作品（絵画、彫刻、写真、インスタレーション等）を設置。



- (2) 「F+AIR」プロジェクトにおいて、名工大において滞在型制作を行うアーティスト（本学卒業生）を推薦し、芸術体験WS及び学生と協働での作品制作を実施した。



- (3) 「F+LAB」プロジェクトとして、陶磁専攻佐藤研究室と名工大の情報工学研究室との研究交流を開始、お互いの研究室訪問を行い、今後の共同研究に繋げた。

- (4) 本学音楽学部教員が名古屋工業大学を会場とした音楽講座「【アートフルキャンパス】音楽プログラムの座学（対象：名工大大学院生）」を開催。

#### 14. 領域を超えた授業科目の連携（異分野のコラボレーション教育）

【芸術大学】

（概要）

各専攻の明快な特色に基づく実技・専門教育による魅力ある学部教育推進を目的として、美術学部と音楽学部の学生が合同で課題に取り組む授業を新たに実施することとし、美術学部陶磁専攻芸術表現コースと音楽学部作曲専攻作曲コースによる、合同授業を2021年度に引き続き実施しました。2022年度は上記両専攻に加えて、芸術学専攻、メディア専攻も指導に参加し合同授業内容が更に充実したものとなりました。2023年度には、新たにメディア映像専攻のアニメーションと作曲コースの来年度の合同授業について検討を開始しました。

（特徴）

本学では、美術学部と音楽学部を併せ持つ総合芸術大学としての強みを生かし、美術と音楽の複合芸術プロジェクトとしてオペラ公演に注力し、本学の明快な特色に基づく実技・専門教育を実施してきました。昨年度より、その特色をさらに深化・強化させるための取り組みとして、各学部の必修授業において、2か月にわたる合同制作授業を実施することとし、美術と音楽の垣根を超えた異分野のコラボレーション教育を開始し、今年度はその内容を更に拡大させています。

（内容）

授業科目	美術学部：陶磁実技 III（担当：長井千春教授） 音楽学部：作曲理論 IIIB（担当：成本理香教授）
開講時期	2023年度後期（11月～12月）
対象年次	3年
授業目的・到達目標	（授業目的）専門分野を超えた創作のコラボレーションを経験する （到達目標）各専門分野の創作に新たなアプローチ法や視座の獲得を目指す
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず、授業期間のプレ授業として前期7月に両専攻の学生が集まりグループ分けをし、各学生がこの日までに選んできた本（文庫または新書）の内容についてプレゼンテーションを行い、各グループで1冊の本を選定。</li> <li>・陶磁専攻と作曲専攻に関する基礎講義を担当教員が実施。</li> <li>・7月に選んだ本の内容にインスパイアされた作品を両専攻コースの学生それぞれが制作、第1回目の各グループの作品発表と作品に関するプレゼンテーションを行う。続いて、同グループの陶磁学生と作曲学生が、互いの作品からインスピレーションを獲得し、または自作品の完成度をさらに深め、高め合うという形でそれぞれ2作品目を制作。</li> <li>・2回の作品発表の機会を持ち、両専攻コース教員からの講評を実施。</li> <li>・作曲コース安野太郎准教授による「音と芸術美術」に関する講義と轆轤を用いたワークショップを実施。</li> <li>・作曲学生により成果作品発表のための計画、広報プランの立案、成果作品の発表演奏会の実施。</li> </ul>
成果発表	2024年4月に本授業の成果発表として、タイトル『レソナンシア/Resoncia III』のもとで成果発表演奏会を開催。陶磁学生の作品成果は2025年2月に展覧会発表予定。

## 15. アーティスト・イン・レジデンス及び外国人客員教員による事業

【芸術大学】

### (目 的)

アーティスト・イン・レジデンスは、国内外の著名なアーティスト等の滞在型招聘により、本学の学生・教職員と交流事業を実施し、本学の国際化、芸術創造能力の向上を図ることによって、広く国際交流・文化振興に寄与することを目的とし2007年度より実施しています。2023年度は、3名のアーティストを招聘しました。

国際交流事業としては、3企画採択し、9月に協定校から招へいする2企画を実施しました。レイ・リャン氏（カリフォルニア大学サンディエゴ校教授）により公開レッスン、コンサート、プレゼンテーション等を実施しました。また、H.C. シュヴァイカー氏（ケルン音楽大学教授）によるチェロの公開レッスンと弦楽四重奏の公開レッスンを各2日計4日に渡って開催しました。愛知県芸術劇場コンサートホールで開催した学部定期演奏会では、2台のチェロのための協奏曲（ヴィヴァルディ）を教員と学生混成の合奏をバックに、大学院生と H.C. シュヴァイカー氏のソリストとしての共演が実現しました。10月に、本学作曲専攻教員2名をバトラー大学（アメリカ）へ派遣し、マスターコースやレクチャーを行うなどの交流を行いました。

外国人客員教員による事業は、複数名の演奏家や作曲家を外国人客員教授として長期（2年間）または短期（2～6ヶ月間）で招聘し、授業や交流事業を実施することで、世界水準を肌で感じられる音楽教育を行うことを目的としています。

### (内 容)

#### (1) アーティスト・イン・レジデンス

- ・森紀明（作曲家）

招聘期間：2023年6月5日～2023年7月6日

- ・マティアス・トート（パペットアーティスト）

招聘期間：2023年10月25日～2023年12月18日

- ・南隆雄（アーティスト）

招聘期間：2023年11月29日～2023年12月15日

#### (2) 外国人客員教員（音楽分野3名）

- ・イリーナ・チュコフスカヤ（ピアノコース）

雇用期間：2023年4月1日～2025年3月31日（2019年度より継続）

- ・フェデリコ・アゴスティーニ（弦楽器コース）

雇用期間：2023年4月1日～2025年3月31日（2019年度より継続）

- ・ユハ・タパニ・コスキネン（作曲コース）

雇用期間：2023年9月29日～2023年12月18日

#### (3) 外国人客員教員による特別講座等

- ・公開講座「公開レッスン（フランス近代音楽）」
- ・芸術講座「レクチャーコンサート シューベルトの弦楽四重奏曲」
- ・「油性木版によるワークショップ」

## 16. アウトリーチプロジェクト

【芸術大学】

### (概 要)

本プロジェクトは、芸術を必要としていながらホールや美術館に足を運ぶことが困難な方たちの元へ芸術家が出向いてアートを届ける活動のうち、届け先を病院に絞った「病院アウトリーチ」を実践するもので、本学の音楽・美術の両大学院生を対象に病院における良質な芸術活動に関わるアーティストを育成します。

大学院音楽研究科「アート・マネジメント」、美術研究科「プロジェクト研究」の授業を拡大し、病院における芸術活動に特化した音美合同の講座を2017年度より開設しています。受講生は、前期でアウトリーチの特色である対象者とのコミュニケーションに基づいた企画の実践として、子供向けアウトリーチを保育園や児童館等で行った後、後期で病院に特化したアウトリーチに関して理論と実習を通じてノウハウを学ぶことにより、「自ら企画し、実践できる」スキルを身に付けます。

医療における芸術活動は、必要性は認識されながらもいまだにノウハウが確立していません。本学においてそれに関わる芸術家が育成されることで、愛知県はもとより、日本全体にとって大きな成果が生まれることが期待されます。

また、本プロジェクトでは病院アウトリーチを行うアーティストの育成にとどまらず、病院における芸術活動に関する調査・研究を行うとともに、芸術による地域貢献も視野に入れた活動です。2019年度は、藤田医科大学病院において、従来の1階でのコンサートに加えて小児病棟でのコンサートを開始したほか、強い希望のあった名城病院や白山リハビリテーション病院、障害者支援等を行う施設などに活動の場を広げ、訪問先の患者に合わせたプログラムを検討して実施するなど、それぞれの病院の特性やニーズに合わせた取組を行いました。また、このプロジェクトが芸術教育自体に新たな可能性を開くものであることを提示する目的で、7月にシンポジウム「芸術教育の新たな可能性～愛知芸大「病院アウトリーチプロジェクト」がめざすもの」を開催し、本プロジェクトの今後の道筋を社会に問いかける機会を作りました。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で病院では実施できませんでしたが、保育園において実施しました。また、各施設で視聴してもらうための演奏動画を試作しました。

本プロジェクトで学んだ学生たちは、アール・ブリュットの演奏会などでその知見を活かした活躍をしています。

2021年度も病院に訪問しての演奏はできませんでしたが、藤田医科大学に対しては、動画配信により音楽を届けたほか、東部保育園及び社会福祉施設、障害者支援施設等に訪問しての演奏会を実施しました。また、あいちアール・ブリュットと連携して、10月にアール・ブリュット障害者アーツ展でコンサートを実施しました。さらに、東京藝術大学からの受託事業で「だれでもピアノ」のファシリテーターによるレッスンを実施しました。そのほか、愛知県立大学 ICT テクノポリス研究所との連携による「音楽の感情測定プロジェクト」にも関わることができました。

本プロジェクトで学んだ学生たちは、アール・ブリュットの演奏会などでその知見を活かした活躍をしています。

2022年度は、東部保育園、豊田西病院、よつ葉の家に訪問して演奏会を実施しました。保育園だけではなく、精神科病院と障害者支援施設での実践を行いました。「病院アウトリーチプロジ



ェクト」が医療分野を主眼に置きながらも、福祉分野への発展性をもつことを強く意識した一年であったと言えます。

2023年度は、尾張旭市立東部保育園、武豊町立北保育園、藤田医科大学病院、豊田西病院に訪問して演奏会を実施しました。今期、藤田医科大学病院の演奏場所が病棟内パサージュから「フジタモール」横イベントスペースに変更になり、音響もよく良い環境で行うことができました。

**【2023年度のアウトリーチプロジェクト実践場所一覧】**

(1) 保育園

尾張旭市立東部保育園

武豊町立北保育園

(2) 病院

藤田医科大学病院

豊田西病院

## 17. 美術学部デザイン・工芸科メディア映像専攻

【芸術大学】

### (概 要)

2022 年度に新たに開設したメディア映像専攻は、現代社会のコミュニケーションツールとなっているメディア映像や先端的な技術をベースとしたデザイン・芸術にアプローチし、新たなメディア映像表現を開拓することに挑戦します。

このことを実現するため、これまでの芸術の枠にとらわれずに分野・領域を柔軟に横断する独自の少人数教育でカリキュラムは構成されています。

学生は、メディア映像のスペシャリストになるための基礎的デザイン造形力を習得し、デジタル映像やアニメーションの制作技術、CGを利用したVFX・ARコンテンツデザインなどを始めとする、ポストブロードキャストを視野においたメディア映像表現の可能性を追求していきます。

さらに、デジタルアート&エンタテインメント・デザインとしてのメディア企画、アドバタイジングデザイン、メディアアート、デジタルアーカイブ、メディア映像文化研究など、新時代のアクティビティの多様性を学びます。

このように高度に情報化した社会に対するプロデュース能力を身につけていくことによって、様々な映像やメディアを通じた表現を新たなイメージで創造できるデザイナーやアーティストの育成をめざしています。

そして、最新情報を取り入れた質の高い教員を展開するため、2023 年度は、国内の著名なアーティストである以下の5名を「特任教授」として招聘しました。

関口敦仁先生 (CG表現・デジタルアーカイブ)

石橋素先生 (テクノロジーアート、ハードウェア開発)

菅野創先生 (メディアアート表現)

比嘉了先生 (CG表現研究、ビジュアルアート)

堤幸彦先生 (演出家、映画監督)

### [現行]

学 科	専 攻
デザイン ・工芸科  〔入学定員 45人 (180人)〕	デザイン専攻 〔入学定員 35人 (140人)〕
	陶磁専攻 〔入学定員 10人 (40人)〕

### [2022年度～]

専 攻
デザイン専攻 〔入学定員 25人 (100人)〕
メディア映像専攻 〔入学定員 10人 (40人)〕
陶磁専攻 〔入学定員 10人 (40人)〕

専攻の  
新設  
➔

※( )内は収容定員

## 18. 芸術大学におけるキャリア支援

【芸術大学】

### (概 要)

近年の芸術学生は、卒業後すぐに自立を目指す傾向が強く、就職希望者が急増していることから、大学におけるキャリア支援の重要性が高まっています。

本学では、学生それぞれが学ぶ芸術の専門分野を活かして就職活動を進められるよう、独自に企画したガイダンスの開催等により学生を支援し、高い就職率を達成しています（2023 年度実績：就職内定率 89.0%）

また、アーティスト/クリエイター志望者へのキャリア支援として弁護士による「著作権セミナー」や公認会計士による「確定申告講座」を実施しています。

### (実施状況)

キャリア支援講座：45回実施（ガイダンス等 22 回、学内企業説明会 23 回）

（2022 年度 29 回実施 ガイダンス等 19 回、学内企業説明会 10 回実施）

ガイダンスの種類	内 容
キャリア支援 ガイダンス・講座 (22 回)	就活準備スタートアップガイダンス、 インターンシップガイダンス（春夏・秋冬）、 ポートフォリオ作成講座 自己分析/職業適性検査、筆記試験（SPI）・面接対策講座 美術学部内定者報告会（全学部・デザイン専攻単独） エントリーシート/履歴書書き方対策講座 ポートフォリオアドバイス会 内定者就活体験座談会 他大学美術学生とのグループディスカッション講座 就活本番直前講座 芸術学生のための合同企業説明会 卒業/修了直前 進路変更&就活継続者説明会 アーティスト/クリエイター支援 著作権セミナー アーティスト/クリエイター支援 確定申告講座 オーケストラのお仕事セミナー
学内企業説明会 (23 回)	愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、自衛隊音楽隊、コクヨ、 電通、ソニーグループ、シャープ、パソナ、Cygames (2 回)、キャノン、 本田技術研究所、日産自動車、Kawasaki モーターズ、デンソー (株)イトーキ、(株)豊田自動織機、CBC Dテック、コレオ、 オリバー、コンセント、ニジボックス、コロプラ

19. 教員による芸術・研究活動の主な実績

【芸術大学】

<美術学部>

氏名	業績
清水 由朗	個展(横浜高島屋ギャラリー)、再興第108回出品、第79回春の院展出品
井手 康人	春の院展出品
岡田 眞治	春の院展入選、干支展(名古屋三越)、第8回湧心会(富山大和)、風景の会(古川美術館)、第12回名美アートアリウム青美展(名古屋美術倶楽部)、若鶯会(日本橋三越、名古屋三越)、第6回気更来会(岡山天満屋)
吉村 佳洋	院展出品、機の会(大阪・ギャラリー菊)、湧心会(富山大和)、青美展(名古屋美術倶楽部)、個展(豊田市・豊田画廊)、若鶯会(三越) 日比科学技術振興財団 研究助成採択、
岩永 てるみ	高知和紙日本画展晴晴会(大丸高知店・神戸店・松坂屋名古屋店・東京店) 再興院展(東京都美術館他)春の院展(日本橋三越他) 風景のいま展(銀座ギャラリー和田)など 古典絵画の研究 文化財保存修復研究所の活動と研究を積極的に進める。 科学研究「中世大画面祭礼図の構図法の研究―月次祭礼図屏風模本の失われた左隻の推定を中心に―」(代表者)及び阪野智啓准教授の科学研究にも参加し研究を行う。
阪野 智啓	日本画制作活動 科研/基盤研究B「中世やまと絵」の研究遂行(代表) 科研/基盤研究C「月次祭礼図」の研究遂行(分担) 科研/基盤研究C「芸術教育」の研究協力(分担) 科研/基盤研究A「和紙データサイエンス」(分担) 科研/基盤研究B「文化としての武」(復元画協力) 日東助成「中世屏風絵裂地と裏地の研究」(代表) 日比助成「中世金箔地の研究」(代表) 受託研究「野亭寺蔵「親鸞聖人絵伝」の保存処置および調査研究」(代表) 第45回文化財保存修復学会ポスター発表 東京大学「長篠合戦図屏風復元研究」研究員 愛知県立大学「人間の尊厳と生命のための人文社会研究所」研究員
阿野 義久	丹桂の会(豊田画廊)、THREE POSITION(うしお画廊) ながくてアートフェスティバル(長久手文化の家) 退任展(サテライトギャラリーSA・KURA)あなたのためのカレンダー展(うしお画廊)
倉地 久	現代美術アートフェア「ART OSAKA 2023」(大阪市中央公会堂)版画作品10点を展示 2023 ART TAIPEI 台北国際芸術博覧会(台北世界貿易センター)版画作品10点を展示 ART TAIPEIは国内外のギャラリーによるアーティストの作品紹介、台湾と国際アート市場との交流促進など、アジアのアートの未来の市場と学術のアートイベントである。 第90回日本版画協会版画展 東京都美術館(上野)9月末～10月中旬
額田 宣彦	研究テーマ「絵画の可能性」3～130号を10～30点の他ドローイング等制作 美術学部教員展/芸術資料館(愛知) 個展/ハギワラプロジェクト(東京)、グループ展/岡崎美術博物館(愛知)
井出 創太郎	『版とことば』(ギャラリー・プチボワ/大阪府) 『落石計画』銅版画試論Ⅲ - ときをつかむ ときのかりか - (旧落石無線送信局/北海道根室市落石西) 『井出創太郎』展(ギャラリー・プチボワ/大阪府) 『教員展』(愛知県立芸術大学資料館/愛知県) 『光射す器/種蔵の影』(種蔵集落/岐阜県飛騨市宮川町種蔵) 『INDIRECT' 23』展(愛知県立芸術大学版画研究室/愛知県)
高橋 信行	『風景と絵画空間の関係について』の考察を進める。 グループ展『GROUND3 絵画のふつうーふつうの絵画』(アートラボあいち) 個展『Lyrics of Sea Horizon』(RENA BRANSTEN GALLERY/サンフランシスコ)
白河 宗利	絵画の創作研究を推し進め、新たな表現方法を探る。 <研究発表> ・「Anatomy of Reflecyion and Flootation」企画:会場: Gallery Soyeun(ソウル) ・「葵の会」企画:会場:銀座スルガ台画廊(東京)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「(仮) BULUE Meets Light」企画：会場：MARGIN（東京）</li> <li>・「AFAF アートフェアアジア福岡」 Spece 0' NewWall（韓国／ソウル）＋ HRD FINE ART（京都）より出品</li> </ul> <p>絵画の技法材料研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画の調査と技法研究 美術館収蔵作品の作品調査（携帯型蛍光 X 線装置等）を文化財保存修復研究所研究員と共に実施し、紀要等に執筆する</li> <li>・名古屋市美術館収蔵作品の調査研究 白河受託研究「猛獣画廊壁画修復プロジェクト及び事前調査」 成果発表「猛獣画廊壁画修復プロジェクト展」（パネル展示）</li> <li>・目黒区美術館所蔵作品の調査研究 白河受託研究「油彩画 寺崎武男《ヴェロネーゼ「レヴィ家の饗宴」模写》の修復」</li> </ul>
増田 直人	<p>第 97 回国展（新国立美術館）、第 97 回国展名古屋展（愛知県立美術館） 第 61 回記念中部国展（愛知県立美術館）、美術学部教員展（芸術資料館） 第 29 回北陸国展（石川県立美術館）</p>
大崎 宣之	<p>「Hyakuyou (Japan wochen in Barmstedt)」, 7/22-9/17 Galerie Atelier III (バルムシュテット・ドイツ) 「ART OSAKA 2023」Expanded セクション, 7/26-7/31, クリエイティブセンター大阪 SSK Art Fair &amp; Open Studio 2023, 7/28-30, Super Studio Kitakagaya (SSK) 個展   大崎のぶゆき「Ghosts」, 9/30-10/29, CAPSULE(東京) 個展   大崎のぶゆき「日時計」, 11/14-12/9, ガレリア フィナルテ (愛知) KUNST PARTY, 11/19-27, OAG ART Center Kobe 第 48 回愛知県立芸術大学教員展、10/27-11/5 愛知県立芸術大学資料館 「MIRROR/MIRROR:カナダ・日本 現代版画ドキュメント」, 1 /17-3/17 (後期 2/17-3/17), 京都 ddd ギャラリー シンポジウム「カナダ・日本 現代版画ドキュメント—制作の現場から」2/12 14:00~16:30、京都経済センター 出演：デレク・ベサント、アレクサンドラ・ヘイセカー、木村 秀樹、大崎 のぶゆき、大島 成己、他</p>
猪狩 雅則	<p>教員展への出品。研究展覧会 GROUND 3 の記録集の編集。 展覧会「光射す器 種蔵の影」2023 の参加・出品。</p>
安藤 正子	<p>「青空は、太陽の反対側にある：原美術館／原六郎コレクション」 原美術館 ARC/群馬 「アーティスト・イン・レジデンス展」瀬戸市新世紀工芸館/愛知 「移動美術館 2023 2 愛知県美術館のコレクションから『画家たちの眼—さまざまな表現への挑戦—』 清須市はるひ美術館/愛知 「安藤正子展 ゆくかは」一宮市三岸節子記念美術館/愛知 画集「安藤正子 ゆくかは」(青幻舎) 2023 年 7 月 18 日 (火) 出版 「第 48 回美術学部教員展」愛知県立芸術大学 芸術資料館/愛知 安藤正子展「まだ起きている」anonymous studio/愛知 令和 5 年度 (第 74 回) 芸術選奨文部科学大臣新人賞 (美術 A 部門) 受賞</p>
平川 祐樹	<p>イスラエルの美術館でのグループ展と個展 台湾の美術館でのアートフェスティバルへの参加 東京のギャラリー StandingPine でのグループ展と個展「Sorry We are Closed.」開催</p>
横山 奈美	<p>リニューアルオープン記念特別展「Before/After」広島市現代美術館 「Taipei Dandai」南港展覧館 (台北)、「Tokyo Gendai」パシフィコ横浜 (東京) 「グループ展」 Gana Art Center (ソウル) 「個展」 ケンジタキ ギャラリー (東京)、「グループ展」 岐阜県美術館</p>
神田 每実	<p>種蔵プロジェクト 2023 種蔵舞台でのパフォーマンス実施(プロジェクト研究 II・I) 文化財研究 阿弥陀経寺院の宗教空間の見学 (プロジェクト研究 VII・VIII)、国立民族学博物館 DB 解析の継続 学会参加 地中海学会 (羽黒/山形) /文化財保存修復学会 (吹田/大阪) 研究論文執筆 愛知県立芸術大学紀要第 53 号 研究発表 HAKOBUNE 展/三浦市立青少年センター/三浦市/神奈川、第 107 回二科展/国立新美術館/東京・愛知県美術館/名古屋、「そして舟は行く」/個展/AUA サテライトギャラリー/名古屋</p>
中谷 聡	<p>第 86 回新制作展 (東京、名古屋) 退任記念展 (ギャラリー SAKURA、茅野市民会館) 瀬戸市美術館企画「中谷聡石彫展」</p>
高橋 伸行	<p>瀬戸内国際芸術祭関連事業 ART SETOUCHI、国立療養所大島青松園での取り組み {つながりの家} (カフェとギャラリー、ガイドツアーを連動させたプロジェクト) のディレクションを継続、通年で実施。 瀬戸内国際芸術祭 2025 に向けた新作のリサーチおよび制作。関連企画ワークショップ実施</p>

	瀬戸内国際芸術祭でのプロジェクトの研究報告を昨年に引き続いて執筆、紀要に掲載予定。
竹内 孝和	ドイツのデュッセルドルフ市にある Hoeheweg e.V. にアーティスト・イン・レジデンスの作家として招聘され滞在制作と研究発表を行う。2023年8月4日～9月25日 教員展（芸術資料館）出品 “International Invitation Exhibition of Color Works”（韓国）
村尾 里奈	古川美術館爲三郎記念館 「彫刻家森克彦展／翼果の帰郷展」6月3日～7月30日 ・会場でのアーティストトーク 6月3日 ・彫刻家によるアート講座1 「旭丘高校の彫刻教育」「森克彦 自作について」のモデレーターを務める 6月4日 ・彫刻家によるアート講座2 「彫刻の発見」7月9日-彫刻の魅力および自作についてのレクチャーを行う ・同展覧会記録集+記念文集の編集と発行 昨年度の展覧会の記録集のまとめ及び論文執筆 「空間表現の場としての展覧会の実践 令和4年度の愛知芸大サテライトギャラリーでの3つの展覧会を通して」 制作研究：レーザー溶接による箱作りの試験品の制作
小西 信之	欧米及び国内の現代アートの研究 1. 欧米・国内のアートの情報の収集と研究 2. 紀要に論文を投稿
本田 光子	研究代表者 基盤C「光則・光起を中心とする近世土佐派絵師の基礎的研究」 村田学術財団「ウズベキスタンミニアチュールの伝統技法の継承と系譜の解明」 豊秋奨学会「日本美術史における子どもの表象に関する基礎的研究」 研究分担者 基盤B「中世やまと絵屏風の光技法復元を中心とする総合的研究」代表者・阪野智啓 基盤A「データサイエンスによる紙の道の解明—量的・質的調査とAI多面的解析に基づいて—」代表者・柴崎幸次
金子 智太郎	戦後日本美術と音の結びつきをめぐる研究、イベントの開催。 戦後日本のオーディオ文化に関する研究。音と芸術をめぐる書評アンソロジーの出版。 ジョナサン・スターン『MP3』翻訳。地域の音文化をめぐる共同調査。
水津 功	「共進化のデザイン4期」：高齢者と介護士が地域社会と連携し共進化する場のデザインの実践 「三郷駅前まち育てプロジェクト3期」尾張旭市との協定による受託事業 「アートアントレ1」：芸大生向けアントレプレナー教育研究 「アートアントレ2」：高校生アントレプログラム及び展覧会の企画実施 「アートアントレ3」：フランス国際シンポジウム参加 「アートアントレ4」：AAA スタートアップシンポジウム参加 「オフグリッドライフデザインの研究」針葉樹材を主燃料とした薪ストーブの開発 景観の研究（碧南市、長久手市、みよし市）、県立大学南門サイン計画（継続）
柴崎 幸次	和紙素材の研究：和紙工房の整備、芸大生のための和紙を作るプロジェクト。 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))の研究実施。 「素材の現在(いま)を見て、未来を考える」などのプロジェクト、小津和紙、東京日本橋商工会。 二国間交流事業共同研究の実施。 東京小津和紙での展覧会開催。 2023年、ドイツ・パッサウでの展覧会の実施。 科研費基盤A「データサイエンスによる紙の道の解明—量的・質的調査とAI多面的解析に基づいて—」の実施。 サマルカンド紙関連研究の出版。 科研費基盤C「創造能力を育成する”芸術と科学”による教育プログラムの実践的研究」 平和中島財団のアジア地域重点学術研究助成を受託した。(追記)
佐藤 直樹	「文字と書体のデザイン」書体制作デザイン、タイポグラフィデザイン、ロゴタイプデザイン、VIデザイン等の研究 「オペラの舞台デザイン」オペラの舞台デザインアートディレクター 「サインデザイン研究」サインデザインシステムの開発研究 「ホスピタリティーのデザイン」病院や看護におけるデザインの研究と教育 「大学の広報に関する活動」各種広報物の制作等 「大学のアクセシビリティに関する活動」サイン計画等

本田 敬	外部（他大学、企業）との連携を積極的に行いながら、新しい領域と自分の研究分野の融合や、触発をはかる。 地場産業、就労支援施設との連携をはかり、製品デザイン開発分野で専門領域であるプロダクトデザインの研究を行う。
夏目 知道	空間デザイン研究の実践 ・表参道サロン（企業コミュニケーション施設）・Lecho（美容院） ・minatoya bakery&restaurant（ベーカリーレストラン） ・M邸（マンションインテリア）・Goen（オフィスインテリア）・VICST（オフィスインテリア）
春田 登紀雄	Milano Unicaで研究成果作品展示とStartup Symposium in Parisで口頭発表及び教育プログラム展示。豊田市の小学校向けの環境教育教材の実施。
望月 未来	こいのぼり GALLERY 東京六本木東京ミッドタウンの屋外施設で開催されるこいのぼり展示のデザインに参加
和 祐里	自身の研究「サインデザインにおける暗示的表現の類型化およびそのデザイン手法確立に対する研究」において、事例調査ならびに、新たなサインデザインのプロトタイピングのための素材（＝マテリアル）研究をおこなう。
梅本 孝征	研究テーマ 独自の磁器を制作するための成形技法及び装飾技法の研究から発表活動（展覧会・公募展等）に繋がる制作をおこなう。 展覧会 「未来へつなぐ陶芸－伝統工芸のチカラ展」愛知県陶磁美術館 4/15～6/18、「第83回瀬戸陶芸協会展」瀬戸信用金庫ギャラリーひまわり 4/8～26、「瀬戸×常滑陶芸 同じ時をつくる展」愛知県陶磁美術館ギャラリー4/29～5/28、「伝統工芸と暮らしの彩り展」名古屋栄三越美術画廊 5/24～30、「ANA クラウンプラザホテルロビー展示」7/24～12/14、「陶祖公園屋外展示」瀬戸市藤四郎町 42、6/9～半年、「手児奈 44周年企画展」工芸ギャラリー手児奈、8/21～30、「2024Exchange Exhibition CONNECT」ギャラリー71Seoul、8/29～9/4、「瀬戸物語 古今無双」古川美術館為三郎記念館、9/8～10/1 公募展 「第54回東海伝統工芸展」入選 愛知県美術館ギャラリー4/25～30、「第70回日本伝統工芸展」入選 日本橋三越他全国巡回 9/14～3/14、「第11回陶美展」入選 日本橋高島屋6階美術画廊 2024/1/24～29 研究 炭化焼成における焼き締め表現の研究（古川美術館為三郎記念館展示の為の作品研究）
長井 千春	「MASATOSHI SAKAEGI THE CROSS展」5/1～5/7 ノリタケギャラリー（名古屋） 「ソウル科学技術大学との教育交流展」8/26～ 71ギャラリー（韓国ソウル） 「済州島国際陶芸フェスタ展」9/2～9/14 済州島文芸会館（韓国済州島） 第48回愛知県立芸術大学美術学部教員展 10/27～11/5 芸術資料館
崔 幸熏	陶磁器デザインを中心に研究・制作、発表 「MASATOSHI SAKAEGI THE CROSS展」（名古屋、ノリタケの森ギャラリー）2023.5.2-7 2023 韓国ソウル科学技術大学との交流展（韓国、ギャラリー71）2023.8.28-31 2023 韓国陶磁デザイン協会交流展（韓国、済州文芸会館ギャラリー）2023.9.2-14 「seed展 vol.6」に参画 第48回愛知県立芸術大学美術学部教員展 2023.10
田上 知之介	日本デザイン学会 作品論文投稿 日本デザイン学会 教育成果集寄稿 MASATOSHI SAKAEGI THE CROSS 展企画・運営、作品出品、ギャラリートーク司会進行、2023.5.2（火）- 5.7（日）、於：ノリタケの森ギャラリー 済美展作品出品、2023.5.9（火）- 5.14（日）、於：熊本県立美術館分館 国立ソウル科学技術大学×愛知県立芸術大学 交流展の運営ならびに作品出品（Gallery71, Seoul） 第48回愛知県立芸術大学美術学部教員展 クラブでアート展、2023.12.13（水）- 12.18（月）、於：国際デザインセンターデザインギャラリー 研究室グループ展「seed展 vol.6」企画および作品出品、研究報告書の作成
佐藤 文子	陶磁技法の研鑽と装飾表現の可能性を追求する。 陶磁原料と素材の可能性について調査研究を行う。 助成研究活動

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独立行政法人日本学術振興会研究助成 - 二国間交流事業共同研究・セミナー「ウズベキスタンブルーの復興 - 建築と壁画装飾における修復調査を中心に」相手国：ウズベキスタン 期間：2021年4月1日～2024年3月31日</li> <li>・日東学術振興財研究助成 - 陶芸制作技法をつかったワークショップの可能性〜こどもを対象とした工芸教育と創作に有効な方法を探る</li> <li>・愛知県陶磁美術館施設内洗面ボウル制作～2024年3月31日</li> </ul> <p>公募展：「第54回東海伝統工芸展」（愛知県芸術文化センター愛知県美術館ギャラリー8階G室）2023. 4. 24～4.30</p> <p>企画展：「第83回瀬戸陶芸協会展」瀬戸信用金庫本店ギャラリーひまわり 2023. 4. 8～26  「瀬戸×常滑 陶芸—同じ時をつくる—」愛知県陶磁美術館 2023. 4. 29～5.28  「伝統工芸と暮らしの彩り」名古屋栄三越美術画廊 2023. 5. 24～5.30  「瓶子」古川美術館分館爲三郎記念館 2023. 9. 8～10.1</p> <p>学会活動 ・東洋陶磁学会 ・韓国アジア民族造形学会（日本東アジア歴史文化研究所）  ・日本美術教育学会</p> <p>共同研究（株）中部リサイクル「石材を活かした新製品開発」</p>
小枝 真人	<p>陶磁技法の研鑽と装飾表現（染付）の可能性を追求する。  陶磁原料と素材の可能性について調査実験を行う。</p> <p>公募展：第54回東海伝統工芸展、第70回日本伝統工芸展、第10回告知ビエンナーレ展、第49回静岡工芸会展</p> <p>グループ展：「第12回名美アートアリウム 青美展」（名古屋美術倶楽部）  ぐい呑展（ギャラリー数寄）、2023 酒器展（三越日本橋本店）2023 酒器展（福岡三越）  伝統工芸のチカラ展 巡回展（愛知県陶磁美術館 茨城県陶芸美術館 兵庫陶芸美術館）  関連イベント：ワークショップ・レクチャー&amp;実演イベント『技をみる～染付の世界～』（愛知県陶磁美術館）、第15回浙江省中国文化遺産博覧会（中国浙江省杭州）</p> <p>個展：染付小枝真人展（福岡三越）、染付小枝真人展（新潟松坂屋）</p>
石井 晴雄	<p>犬山城下町景観計画（犬山市都市計画課）犬山城下町の店舗の広告物などの指導  退任展 芸術資料館等で行われた退任展において、今までの研究、活動、作品についてアーカイブとして全5冊にまとめて展示</p>
森 真弓	<p>メディア企画研究  共鳴（Kyo-me）プロジェクト  QOL向上のための、生涯スポーツ普及に向けた企画及び表現研究  パラスポーツ普及のための企画及び表現研究  日本映像学会、日本デザイン学会</p>
有持 旭	<p>サウジアラビアとポーランドがプロデュースした新作アニメーション『並んだLAND』が、ザグレブ国際アニメーション映画祭で上映される  京都産業大学のギャラリー「むすびわざ館」にて個展を開催  科研費基盤Cの研究を遂行。日東学術振興財団から受けた助成の研究を遂行  山口大学医学部附属病院に委託された作品の制作  イェール大学から受けた助成の研究を遂行  日本アニメーション学会発表  東京でエストニア・アニメーション上映会、京都で北欧アニメーション上映会を企画・講師を務める</p>
池田 泰敬	<p>「鑑賞者主観情報と時空間データによる VR アーカイブシステムの開発」（23K00238）  2023-2027 年度（研究代表）  共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）  地域共創分野 地域を次世代につなぐマイモビリティ競争拠点 研究開発課題4（メンバー）  [ドキュメンタリースタディーズ vol. 2] 作品鑑賞ワークショップ ファシリテータ（鴨江アートセンター）  研究成果/作品展示（11月/東京）</p>
清道 正嗣	<p>結晶タンパク質の機能について研究を行う。  発光器の細胞・生理的な研究を行う。</p>
石垣 享	<p>教育医学会大会で発表を行う。標準化学会全国大会で発表を行う。  東海体育学会大会で発表を行う。生産管理学会で発表を行う。  Journal of physiological anthropology に論文を投稿する。</p>
数森 寛子	<p>2022 年度 研究活動スタート支援の研究課題  「ロマン主義文学と死生観の変容」の研究に取り組む。  科学研究費助成事業 基盤研究（B）の研究課題  「フランス・ロマン主義の歴史的展開についての研究——文学、政治、美学」の研究に取り組む。</p>



＜音楽学部＞	
小林 聡	ハーブについて（歴史・構造・奏法）についての研究（過去の論文の加筆をし、資料も加え、より充実したものにする） 箏のための新作・フルートとピアノのための新作の作曲 作品発表 “Glass Swan” for Piano 再演（2024.5.7 モントリオール） “Glass Swan” for Piano 再演（2024.8.30 タンペレ） “Glass Swan” for Piano 再演（2024.11.12 那覇） 新作歌曲の初演（東京） 研究発表：米バトラー大学での発表
山本 裕之	作品発表（演奏） ・ピアノソロのための作品（再演：Salle Bleue   Édifice Wilder（モントリオール）） ・クラリネットとヴィオラのための作品（再演：KMアートホール（東京）） ・吹奏楽のための作品（初演：まなみーる（岩見沢）、キタラホール（札幌）） ・ヴォーカル・アンサンブル作品（初演：会場不明（東京）／2024年3月） 作品発表（CDリリース） ・エレキギターのための作品・2本のギターのための編曲作品 研究調査 名古屋の作曲家である戸島美喜夫（1937-2020）の作品リストを制作し、氏の活動の全貌を明らかにする。本研究は令和4年度に引き続き2年間をかけて行う。
成本 理香	作曲活動：ソプラノとトイピアノのための新作初演、ミニキーボードのための新作初演 研究活動：日東財団の助成金を得ており、「クロスジャンル（ジャンルの越境）」により生まれる音楽作品の研究を引き続き行う。
安野 太郎	愛知県芸術劇場にてゾンビ音楽『大霊廟 IV-音楽崩壊-』を実現。10月14, 15日 山田岳、太田真紀のデュオにゲスト参加（3/2 東京） アーツさいたま・きたまちフェスタに参加（3/22, 23, 24 さいたま市）
東谷 護	科研費の研究分担者として採択された研究を進める。歌謡曲文化に関わった作詞家に関して5年ほど前に提示された説の間違いについて新資料を提示した。
七條 めぐみ	「大正時代の日本におけるドイツ軍捕虜の音楽活動」に関して、一次資料の収集、分析を行う。科研費等の競争的資金に応募するとともに、研究成果を論文として発表する。 「大正・戦前昭和期の名古屋の音楽文化」に関して、新聞記事の整理、分析を行い、音楽記事を検索できるデータベースの作成を進める。
中巻 寛子	19世紀後半から20世紀前半にかけての、日英伊の声楽作品ならびにその演奏に関する実践的、学術的研究、「イタリア古典歌曲」に関する学術的な研究を行う。
森川 栄子	主に現代の声楽作品の研究を深め、学内外の演奏活動を積極的に行う。 演奏表現の充実を図るため、他の音楽家による演奏や作品発表の鑑賞も積極的に行う。
小原 啓楼	地形劇場柿落し公演 トゥーランドットより「誰も寝てはならぬ」 オーケストラ・キャラバン 日本センチュリー交響楽団「夏の第九」特別演奏会 6月30日 熊本県立劇場、7月2日 山口市民会館大ホール、指揮：水戸博之 日本声楽家協会オンライン講座 パシフィックフィル特別演奏会 信時潔「海道東征」東京芸術劇場コンサートホール、指揮：飯森範親 シティフィル第365回定期演奏会 「トスカ」演奏会形式 東京オペラシティコンサートホール、指揮：高関健 郡山みんなで歌う第九の会第11回演奏会 指揮：佐藤守廣
初鹿野 剛	オペラへの出演 ・名古屋テアトロ管弦楽団《ボエム》（7/16、東海市芸術劇場） ・愛知祝祭管弦楽団《ローエングリン》（8/20、愛知県芸術劇場コンサートホール） コンサートへの出演 ・歌の競演（長久手市文化の家）・本学「伴奏法・歌曲」代演（本学室内楽ホール） ・音楽学部教員キャラバンミニコンサート（2/17、英明高等学校） 音楽指導、合唱指導等 ・金2試演会（合唱指導） ・大学オペラ《アルチーナ》副指揮、合唱指導等・博前「重唱」試演会（音楽指導）他
川島 幸子	地形劇場オープニングコンサート（マラソンコンサート）出演（愛知県立芸術大学） バッハ作曲：ロ短調ミサ曲 ソプラノソロ（岐阜） 第九コンサート ソプラノソロ（名古屋） リサイタル（名古屋）
森 寿美	愛知県立芸術大学地形劇場こけら落とし公演（4月） いずみホール シューベルト レクチャーコンサート（5月 大阪市） はんだ夏の第九 2023（7月 半田市）セントラル愛知交響楽団

	<p>プッチーニ：歌劇《ラ・ボエーム》(7月 東海市)名古屋テアトロ管弦楽団          大下名誉教授追悼コンサート(9月 長久手市)、こども CLASSIC 塾コンサート(9月 奈良市)          ヘンデル：《Te Deum》HWV283 名古屋芸術大学オーケストラ定期公演(11月 名古屋市)          マラー：《子供の不思議な角笛》(1月 京都市)          室内楽の響演 vol.3 花崎教授プロデュース(3月 名古屋市)</p>
北住 淳	<p>演奏技術と芸術表現の一層の練成を目指し、演奏の多様性と音楽表現の深化を心掛けた演奏活動・音楽活動をおこなう。          現代作品は大学定期演奏会で作曲学生の「80年後のラフマニノフ」初演を独奏。</p>
内本 久美	<p>古典から現代に至るピアノ作品の継続的な研究を続ける。          アイスランド、オーストラリア、イタリアの作曲家によるフルートとピアノのための委嘱新作を研究し、イタリア人フルート奏者と共に CD 録音する。          秋にミラノ市(イタリア)でソロ、連弾作品の演奏会を行なう。</p>
掛谷 勇三	<p>セルゲイ・ラフマニノフ生誕 150 周年記念ピアノ独奏作品婉曲演奏会 Vol.2、3 (全4回)の実施、および Vol.4 のための研究。          ピアノリサイタル開催(東京公演)「S.ラフマニノフ生誕 150 周年記念ピアノ独奏作品婉曲演奏会 Vol.2」ラフマニノフ：幻想小曲集 作品 3、24 の前奏曲 作品 23、作品 3-2、作品 32、他の作品研究及び発表          ピアノリサイタル開催(東京公演)「S.ラフマニノフ生誕 150 周年記念ピアノ独奏作品婉曲演奏会 Vol.3」ラフマニノフ：楽興の時 作品 16、サロン小品集 作品 10、ライラック 作品 21-5、ソナタ 第 2 番 変ロ短調 作品 36 (1913 年版)他の作品研究及び発表</p>
鈴木 謙一郎	<p>古典(モーツァルト、ハイドン等)における様式感と演奏法の研究。          ロシア音楽におけるヴィルトオーズの演奏法の研究</p>
中尾 純	<p>名古屋市と千葉市において古典派から近代までのソナタによるリサイタルの開催</p>
武内 俊之	<p>ラフマニノフ生誕 150 年にあたり、ここ 5 年ほどの研究成果を纏めた CD リリースを完成させ、またリサイタル等でも発表を行う。</p>
秋場 敬浩	<p>音楽祭出演：第 21 回軽井沢国際音楽祭への出演依頼を受け、国内外の演奏家と共演。          リサイタル発表：長野県上田市の 信州国際音楽村ホールこだまにおいてソロ・リサイタルを開催し、モーツァルト、クルヴィッツ(エストニア出身の現代作曲家)、ベートーヴェンの作品によるプログラムを演奏。          楽譜校訂、編集：2024 年 4 月下旬に音楽之友社より刊行予定の「ロシア・ピアノ小品集」(仮題)の校訂、解説執筆を担当(単著)。</p>
福本 泰之	<p>地形劇場こけら落としコンサート(コンマス)          蒲郡フィルハーモニー第 55 回定期演奏会(指揮者)蒲郡市民会館大ホール          オープンキャンパス弦楽合奏セミナー(指揮者)          ザ・ストリングス名古屋第 25 回定期(2nd Vn 首席)電気文化会館ザ・コンサートホール          poco violin DUO 演奏 長久手市文化の家風のホール          第 56 回定期演奏会 学生との弦楽オーケストラ Va 出演          名古屋二期会オペラ本公演「カルメン」日本特殊陶業市民会館フォレストホール          大学オペラ コンマス出演          弦楽合奏第 18 回定期演奏会 指揮者出演          鳥取県中部地区弦楽入門講座ミニコンサート 倉吉市未来中心リハーサル室          室内楽の響演 vol.3 Va 出演 ザ・コンサートホール          トリオ F コンサート あげつまクリニック別館</p>
花崎 薫	<p>ヴァイオリンとチェロデュオリサイタル(青梅)          東京クライスアンサンブル第 30 回コンサート(ハクジュホール)6月18日          芸術講座、シューベルトのクアルテット(室内楽ホール)          那須、弦楽亭リサイタル          東京クライスアンサンブルコンサート(ハクジュホール)10月1日          東京クライスアンサンブルコンサート(東京文化会館)10月19日          カンマーフィル神戸コンサート、ベートーヴェン 3 重協奏曲ソリストとして出演(神戸松方ホール)          愛知県立芸術大学オーケストラ定期公演、エルガーチェロ協奏曲、ソリスト出演(愛知県芸術劇場)          ピアノトリオコンサート(電気文化会館)          弦楽器コース弦楽合奏定期公演、ハイドンチェロ協奏曲、ソリストとして出演、(しらかわホール)          花崎薫教授プロデュース、室内楽の響演 Vol. III (電気文化会館)</p>
白石 禮子	<p>愛知芸大弦楽アンサンブル(2004年に弦楽器コース教員が共同で立ち上げ以来継続)</p>

	アーティストインレジデンス招聘アーティストとの共演 「室内楽の響演」シリーズ演奏会等
桐山 建志	今年で没後 150 年となるダヴィットの作品（編曲を含む）を中心に研究を行い、演奏活動を充実させる。・ピリオド奏法の研究では、菰野ピアノ歴史館も活用する。 演奏会 「18 世紀イタリア、ヴァイオリン音楽の歩み」7 月 25 日 「1810 年生まれのショパンとダヴィット」8 月 26 日 「弦楽四重奏 ダヴィット没後 150 年記念」9 月 7 日 「モーツァルトとその周辺」1 月 28 日
渡邊 玲雄	芦屋国際音楽祭クロージングコンサート（芦屋ルナホール） 愛知県立芸術大学地形劇場こけら落としコンサート及びマラソンコンサート（地形劇場室内楽ホール） アンサンブル of トウキョウ 第 147 回定期演奏会（東京文化会館（小）） NHK 交響楽団第 1985 回定期公演（サントリーホール、舞鶴市総合文化会館大ホール） アンサンブル天下統一 10 周年コンサート（岡崎市シビックセンターコンサートホール） アンサンブル of トウキョウ 金昌国追悼演奏会（紀尾井ホール） ARK シンフォニエッタ演奏会（川口リリアホール） NHK 交響楽団真夏の演奏会（東京芸術劇場） NHK 交響楽団第 1992 回定期公演（NHK ホール） アンサンブル of トウキョウ 第 149 回定期演奏会（紀尾井ホール） バイエルン国立歌劇場創立 500 周年記念演奏会（ムファトホール） ミュンヘン京都市交響楽団第九特別演奏会（京都コンサートホール他） 古宮幹康リサイタル、コントラバスランド、室内楽演奏会（電気文化会館） アンサンブル of トウキョウ 第 150 回定期演奏会（紀尾井ホール）
深町 浩司	世界的に高い評価を受けている楽団「サイトウ・キネン・オーケストラ」に参加し、打楽器奏法実践研究および合奏法研究実践を行う。また同オーケストラの公演に参加する。第 150 回日本音響学会（2023 秋季）研究発表会において招待講演を行い、演奏家の立場からティンパニの音響と奏法を結び付けた研究成果の発表を行う。
倉田 寛	トロンボーンソロに於けるレパートリーの開拓。 室内楽、特に金管 5 重奏のレパートリー開拓。 低音楽器オーケストラスタディーの充実。声楽曲を生かした金管楽器奏法の模索
橋本 岳人	オーケストラ演奏では、新日本フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、パシフィックフィルハーモニー東京他へ、首席客演フルート奏者として参加
井上 圭	トランペットアンサンブルのレパートリー拡充。 金管 5 重奏の結成、レパートリー拡充
三宮 敦生	『未来の予測のための記憶』について、認知心理学及び神経科学の側面からリサーチする。神経科学全般についてベイズ統計の理解を深める。
水野 留規	タツノの叙事詩『エルサレム解放』第 19 歌翻訳、『エルサレム解放』研究
大塚 直	《劇作家ホルヴェート研究》 科研費による研究「劇作家エデン・フォン・ホルヴェートの初期社会劇とバイエルン革命の遺産」（課題番号：21K00419）を継続して行う。 西欧戯曲史におけるホルヴェートの新規性・位置付けについて、政治的な初期戯曲『登山鉄道』の内容と構造を分析した論考を現在、準備中である。 また初期社会劇として『スラデク』及び『イタリアの夜』を検討しながら、風刺や犯罪、言葉と意識など、独自の作風を展開するに至った当該作家の軌跡について、ラインハルト門下、『世界舞台』誌の寄稿者、戦間期カバレティストらとの関連から新たに探る。
井上 彩	ハワイ・クレオールの文法的変異の社会的及び言語内的要因（科研費助成事業基盤 C） 事業全体の報告書作成 ハワイ・クレオールにおける視覚的語彙認識（科研費助成事業基盤 C） 実験データの整備、先行研究調査、データ分析 日本語系混成言語研究の概要（共同研究）資料収集、論文執筆 複数の研究手法で生成系 AI 対応の言説を分析（共同研究）データ分析、国内学会発表
三品 陽平	共同研究者として参加している科研「大学の教員養成における「省察」言説の生成・受容とその問題に関する総合的研究」に関連して、「教師教育研究における反省概念の展開」を研究し、発表する。 共同研究者として参加している科研「「チーム学校」の実現をめざすアクションリサーチ—学校教育版 TPE の試み—」の実践を事例研究としてまとめる。

## 20. 企業、研究機関などとの連携、共同研究

【芸術大学】

### <共同研究>

内容	共同研究者
「生分解性素材を活用した循環型社会の実現を目指すビジネスプランニング及びトータルブランディング」の共同研究	時田毛織(株)
野亨寺蔵「親鸞聖人絵伝」の保存処置および調査研究の共同研究	名古屋造形大学
長久手市巡回バスを中心とした環境推進における広報媒体の共同研究	長久手市
ヤマハ発動機の技術やブランドを活用した陸・海・空での感動体験を創出する 学生を交えてコンセプトデザインを創出する	ヤマハ発動機(株)

### <受託研究>

内容	研究者
野亨寺蔵「親鸞聖人絵伝」第1-3幅修復	野亨寺と文化財保存修復研究所、日本画専攻教員
「長久手合戦図屏風」模写制作	長久手市、徳川美術館、日本画専攻教員、文化財保存修復研究所
油彩画 寺崎武男《ヴェロネーゼ「レヴィ家の饗宴」模写》の修復	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団と油画専攻教員
須賀神社農村舞台襖絵欠失面の復元画制作	須賀神社と文化財保存修復研究所、日本画専攻教員
猛獣画廊壁画修復プロジェクト	名古屋市美術館と文化財保存修復研究所、油画専攻教員
【COI-NEXT】地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点	名古屋大学、東海大学、KDDI総合研究所、KDDI株式会社、デザイン専攻教員
油彩画 水谷清《北京風景》・服部保《水仙》の修復	文化財保存修復研究所、油画専攻教員
絵画16点 岸本清子《春の七草》の修復	文化財保存修復研究所、油画専攻教員
立体作品 高崎元尚《装置》の修復	文化財保存修復研究所、油画専攻教員

<企業、研究機関などとの連携>

内容	連携
<p>神戸財団から委託を受け、武蔵野美術大学とともに「book and work 神戸財団『陶磁教育・作品交流展』」を企画し、国内芸術大学陶磁専攻・陶磁学科の学生作品と教育に関する交流展の募集を開始した。</p>	<p>一般財団法人神戸財団（受託事業）</p>
<p>次世代を担う若手芸術家の発信発表の場を創出し、経済界と現代アートとの融合、停滞した経済への考え方を変革する新たな価値観を生み出す活動を実施。イノベーターズガレッジ賞の受賞者の審査を行った。（2021年度～3回目）</p>	<p>中部圏イノベーション推進機構</p>
<p><b>Music in the GARAGE!</b> 受託事業 8月と12月にコンサートを実施した。</p>	<p>中部圏イノベーション推進機構</p>
<p>中部電力が所有する地域共生施設（「メグラスガーデンナゴヤ」2026年4月リニューアルオープン予定）に設置するガーデンオブジェ制作の依頼を受け、調査・プラン提示を行った。</p>	<p>中部電力株式会社</p>
<p>ホーユー株式会社からの依頼を受け、100周年記念事業の一環として「#髪を染めた日エピソード」にまつわるアート展を企画し、学内公募によりアーティストを選出し、開催した。</p>	<p>ホーユー株式会社</p>

## 21. アートラボあいち芸術大学連携プロジェクト

【芸術大学】

### (概要)

あいちトリエンナーレが取り組んできた先鋭的な芸術の創造を継承し、発展させていくことを目指して設立されたアートラボあいちを拠点として、2016年より、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、名古屋造形大学の県内3つの芸術大学による企画展示を行ってきました。2022年度からは、名古屋学芸大学が加わり4大学連携となりました。

各大学の境界を超え、若いアーティストたちの飛躍を期待するものとして毎年展覧会を開催しています。

### (内容)

#### (1) 開催場所

アートラボあいち (大津橋)

#### (2) 企画内容

○2023年度大学連携プロジェクト 県芸・名芸・造形・学芸 夏休み連続講座

期間	2023年9月
内容	連携大学の在學生と卒業生(10年以内)を対象に、美術・芸術の分野で活動していく上で知っておきたい、考えておきたいことなどに焦点を当てた講座を実施されました。4つのテーマ「社会と芸術」「著作権」「アーカイブ」「表現の自由」を設け、様々な分野の専門家からのレクチャーとディスカッションを通して、各自の目指すシーンで活用できる考え方を学びました。 ※本学からは1名(美術学部芸術学専攻1名)参加。

<愛知県立芸術大学独自企画>

○本学主催展覧会「Gap in boundary 境界の隙間で」来場者数368名

期間	2023年9月15日～10月22日
内容	絵画技法・シルクスクリーン技法の方法や特性によって、通常制作工程の中で省かれたり見えなくなってしまう「こと」や「もの」にフォーカスし、それぞれの特性を生かしながら平面作品を制作する3名の作家(藤原木乃実、手塚好江、つづきりょうこ)による展覧会です。 愛知を拠点として絵画や版画制作を行う3名の展覧会は、アートラボの特殊な空間を活用し、それぞれの表現の中にある「境界の溶化」を目指した絵画作品群を配置展示しました。

## 22. あいちアール・ブリュット

【芸術大学】

### (概 要)

あいちアール・ブリュットとは、愛知県内の障害のある人の芸術・文化活動を通じて、障害のある方の社会参加と障害への理解が深まり、障害の有無をこえた交流が広がることを目指す活動です。

2023年度は、美術学部については、昨年度に引き続きアール・ブリュットに関するシンポジウムを2024年2月に開催したほか、出前講座（陶芸）を実施しました。音楽学部においては、2023年9月に障害者アーツ展におけるコンサートや、出前コンサートを実施しました。

### (内 容)

#### (1) シンポジウム「アール・ブリュットの時代 Vol.4」アートって、なあに…アートの力

##### ・開催日時・場所

2024年2月17日（土）13:30～16:00・愛知県立芸術大学 新講義棟大講義室

##### ・講座内容

第1部：「絵の幸福・シタラトモアキ論」「芸術の果たしてきた役割」

第2部：フリートークディスカッション、愛知県立芸術大学での取り組みを紹介

#### (2) 障害者アーツ展 コンサート

##### ・開催日時・場所

2023年9月15日（金）12:00 開場 13:00 開演 名古屋市東文化小劇場

##### ・内容

ヴァイオリン、ファゴット、ピアノのトリオによるクラシックコンサート

#### (3) 出前コンサート

##### ・開催日時・場所

2023年12月6日（土） 社会福祉法人成春会蔵王苑

2023年12月15日（金） 特定医療法人共和会共和病院

2023年12月16日（土） 社会福祉法人相和福社会パスピ・98

2024年2月17日（土） 社会福祉法人樫の木福社会かしの木の里

#### (4) 出前講座（陶芸）

##### ・開催日時・場所

2023年12月5日、2024年1月23日

社会福祉法人 生活介護事業所あいうえおハウス

## 23. 収蔵品展・収蔵品の他機関への貸出件数

【芸術大学】

### (1) コレクション展

#### ①コレクション展1「ひとのかたち—写実—」

日時：2023年5月10日（水）～5月28日（日） 12：00～19：00

場所：サテライトギャラリーSA・KURA

#### <概要>

絵画や彫刻の身近な題材である「ひとのかたち」に着目し、「写実」というテーマで展覧した。本学が収蔵する人物をモチーフにした作品の中から、作家それぞれの視点が垣間見えるような作品を紹介した。

#### <展示作品>

- ・山本豊市《腰かけた女》1925年
- ・山本豊市《デッサン「裸婦」》制作年：滞欧中
- ・アリスチード・マイヨール《デッサン》制作年不詳
- ・アリスチード・マイヨール《右手をあげた婦人》制作年不詳
- ・奥村土牛《輪島の朝市》1976年
- ・川島 優《TOXIC》2015年
- ・安井曾太郎《素描ニー3》1905年頃
- ・安井曾太郎《素描ハー4》1909年か
- ・安井曾太郎《素描ニー6》1905年
- ・安井曾太郎《素描ニー7》1908年
- ・安井曾太郎《素描ニー2》1905年
- ・木村秀樹《「Pencil」シリーズ》1974年
- ・モーリス・アスラン《椅子に座る女》
- ・伊藤廉《赤衣着物の半身像》1928年
- ・鬼頭鍋三郎《赤衣の女》1942年
- ・大野不動《黒い絵（未来への手紙と昔の写真）》2018年
- ・郝芸姝《電車の中の人々》2019年
- ・石井鶴三《俊寛頭部試作》1930年
- ・小磯良平《男》1955年
- ・小磯良平《横たわる女》1956年

#### ②コレクション展2「ひとのかたち—抽象—」

日時：2023年6月7日（水）～6月25日（日） 12：00～19：00

場所：サテライトギャラリーSA・KURA

#### <概要>

「コレクション展1 ひとのかたち—写実—」に続き、抽象的な表現や色を支柱に感情や内面、精神性をあらわした人物表現を紹介した。島田章三をはじめ本学にゆかりの深い大沼映夫、辻親造、宮崎進や、学生の卒業制作などと共に、ヘンリー・ムーアやアレクサンダー・アーキペ



ンコなどの彫刻家の作品まで、幅広く抽象的なひとのかたちを展観した。

<展示作品>

- ・宮崎進《版画集『忘れないために』Lest We Forget the Victims 捕らわれた人》  
1990(平2)年
- ・杉山健司《ヒトたち》1988(昭63)年
- ・ジョルジュ・ルオー《ボードレール『悪の華』: Au lecture》1927年
- ・ジョルジュ・ルオー《ボードレール『悪の華』: Le squelette la boureur》1927年
- ・辻親造《ふたり》1978(昭53)年
- ・辻親造《ヒト》1990(平2)年
- ・山口薫《雪と少女》1954(昭29)年
- ・増元 奈菜《beautiful》2017(平29)年
- ・大沼映夫《「人々の社会」》1996(平8)年
- ・難波田龍起《立ち話》1977(昭52)年
- ・島田章三《かたちびと89》1989(平1)年
- ・宮崎進《TORSO》1992(平4)年
- ・ジョルジュ・ルオー《ボードレール『悪の華』: Au lecture》1927年
- ・ヘンリー・ムーア《作品》制作年不詳
- ・ヘンリー・ムーア《横たわる女》制作年不詳
- ・アレクサンダー・アーキペンコ《『Les formes vivantes (生動するフォルム)』Les amoureux (恋人たち)》1963(昭38)年

(2) コレクションの活用

① 「のこす/作法 鶴飼聡子」展

日時: 2023年11月25日(土) ~12月17日(日) 12:00~19:00

場所: サテライトギャラリーSA・KURA

<概要>

平成28年度に本学大学院美術研究科油画・版画領域を修了した鶴飼聡子による作品の収集と保存に着想を得た本展では、ドライフラワーに着彩した油彩画や乾燥させた果物の皮を縫い果物の形に再構成した作品など鶴飼が未来に向け「のこす」作品とともに、本学芸術資料館のコレクションの中から特に古く本学に収蔵されるまでも長く「のこされてきた」古代瓦の断片や江戸時代初期の小袖を展示した。

<展示作品>

- ・《古代瓦断片一式(日本及び朝鮮)》7~9世紀
- ・《小袖》江戸時代初期

(3) 収蔵品の他機関への貸出件数

① 奈良美智《innocent being》

1987年、アクリル、カンヴァス、194.0×130.3cm

青森県立美術館での奈良美智の個展「奈良美智: The Beginning Place ここから」に展示するため。

## 24. サテライトギャラリー SA・KURA

【芸術大学】

(概要)

名古屋栄のサテライトギャラリー閉廊から1年9ヶ月を経て、2019年6月に栄北（オアシス21至近）に「サテライトギャラリーSA・KURA」を開廊しました。ギャラリーの名称には、大学の研究や教育成果をアピールする場所として、県民や市民の記憶に残り親しみやすい名称がふさわしいとの考えや、地名である東桜の一文字を取り入れることで、地域や社会と連携する意図を込めています。

S=Satellite・サテライト

A=Aichi Art・愛知アート・AUA

KURA=蔵／研究や資料などの宝物を、ここから発信する拠点としての蔵

SA・KURA=東桜町の地名

2023年度のサテライトギャラリーSA・KURAは、全11の展覧会を開催しました。

<2023年度実施の展覧会一覧>

展示名称	日数	入場者数	一日平均
田島圭個展 1-135 縁側からのルポルタージュ「白い紙に黒い四角」	20	210	11
コレクション展1 ひとのかたち—写実—	17	150	9
コレクション展2 ひとのかたち—抽象—	17	181	11
ラルフ・フリッツ・ベアガー Ralf Fritz Berger 名古屋方面は7路線 SEVEN LINES FOR NAGOYA	20	178	9
"Shamanic Myths" Hasan・KIRAN Solo Exhibition	13	140	11
阿野義久退任記念展 「循環—ここに在るもの」	20	367	18
中谷聡退任記念展	20	210	11
のこす/作法 鶴飼聡子	20	231	12
神田每実退任展 vol.2 そして舟は行く ～彷徨～	20	261	13
博士学位論文・作品展	6	127	21
城戸保「駐車空間、文字景、光画」	20	232	12
合計	193	2287	12

## 25. 芸術大学におけるブランディング・知名度向上に向けた取組

【芸術大学】

### (概 要)

芸大のブランドや知名度のより一層の向上を目指すため、大学WebサイトやSNS等の情報発信ツールの充実を図り、教育研究、地域・社会貢献活動などに関する情報発信・広報を行っています。

### (1) 大学Webサイトリニューアル

リニューアル後のウェブサイトは2023年3月31日に公開しました。グローバルメニューを5項目にし、第一階層から順番にウェブページが回遊できるよう、情報を探しやすいページ構成やスマートフォンやタブレット端末からもより利用しやすいサイトデザインに全面的に刷新しています。各専攻で管理している専攻サイトや各施設等のWebサイトも本学Webサイトへ統合しました。

ウェブサイトのデザインは、デザイン専攻春田登紀雄准教授が監修し、吉村順三氏が設計した本学のキャンパスをイメージし、新しいホームページにおける特徴的な蘇芳色（すおういろ）の枠は、本学の校舎の窓をモチーフとしています。

他大学等と差別化し、最新のデザインで本学らしいWebサイトの構築を目指し、リニューアル作業を行いました。

2023年度は、新コンテンツの開設や、改修に取り組みました。

新コンテンツとして、教員の「研究室ページ」を開設しました。本ページは、教員自ら、大学Webサイトにおいて自身の活動や各専攻のお知らせ等を発信することが可能となるもので、11月上旬に公開しました。また、「在学生の声」ページを設け、学生のインタビューや活動の様子を掲載しました。「活躍する卒業生・修了生」ページでは、紙媒体である大学案内より、情報量の制約がないことから、より多くの卒業・修了生のプロフィールや作品等を紹介しました。これらを通じ、より受験生はじめ多くの方のニーズに応えることができました。

リニューアル後の改修として、より利便性を向上させるため、イベント情報をカテゴリ別で検索できるようにしました。

合わせて、英語サイトのリニューアルを進め、海外在住者に紹介したい情報を精査し、学内教員による翻訳確認作業を行いました。(2024年4月1日公開)

### (2) 大学Webサイト・SNSによる情報発信

#### ・大学Webサイト

掲載内容：大学の概要（専攻・コース案内、教員情報など）、

大学の主要行事（入学式・卒業式など）、

在学生・卒業生や教員の受賞・活動状況、展覧会・演奏会の案内など

アクセス件数：574,552件（2022年度：531,658件）

- Facebook

掲載内容：大学の主要行事（入学式・卒業式など）、  
在学生・卒業生や教員の受賞・活動状況、展覧会・演奏会の案内など  
アクセス数 14,947 件、リーチ数 246,991 人

※2022年9月より Facebook 仕様変更のため、仕様変更日から分けて表記

2022年4月～2022年8月 閲覧：219,202件、リーチ数95,944人、  
2022年9月～2023年3月 アクセス数6,325件、リーチ数68,718人

- X（旧 Twitter）（2018年度より公式SNSとして運用開始）

掲載内容：主催イベント、在学生、卒業生活躍情報など

アクセス件数：762,919件（2022年度510,310件）

### （3）オリジナル欧文タイプフェイス・ロゴの開発

英語サイトのリニューアルに向け、オリジナル欧文タイプフェイス（フォント）とロゴを開発しました。

ウェブサイト同様春田登紀雄准教授を中心として、デザイン専攻で協議し、佐藤直樹教授の監修のもとに開発されました。タイプフェイスのデザインは、講義棟の形をモチーフに展開されています。3月発行の広報誌「学報 No. 71」にも使用され、今後、ウェブサイトや大学案内などの広報媒体に活用する予定です。

また、欧文ロゴは、タイプフェイスを用いて制作されました。

## 26. トップマネジメントによる予算配分

【法人運営】

(概要)

2024年度予算において、収入は大きな変化がない一方で、支出については2023年度の光熱費の落ち着きの状況を踏まえ、光熱費予算を減らし、各事業の予算に回すことができた。その一部を財源として、理事長・学長の判断により執行が可能な「トップマネジメントによる事業費予算」を2023年度より40%増やすことができました。

[トップマネジメントによる事業費予算]

20,523千円（業務費総額（人件費除く）1,865,665千円の1.10%

県大・・・10,000千円（大学裁量経費）

芸大・・・868千円（学長特別研究費500千円、大学裁量経費368千円）

法人・・・9,655千円（法人政策経費9,655千円）

2023年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,874,116	14,285	0.76%	1,168,335	0	527,088	2,355	178,693	11,930

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2022年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,887,242	35,985	1.91%	1,180,761	4,263	519,116	1,500	187,365	30,222

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2021年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,861,215	19,132	1.03%	1,161,710	12,435	502,807	4,060	196,698	2,637

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2020年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
1,866,844	16,626	0.89%	1,169,886	6,708	495,275	1,675	201,683	8,243

※・・・トップマネジメントによる予算枠

2019年度

(単位:千円)

業務費総額(人件費除く)	※	※の割合	県大	※	芸大	※	事務局	※
2,091,087	15,774	0.75%	1,237,977	7,396	604,861	1,350	248,249	7,028

※・・・トップマネジメントによる予算枠

[2023年度のトップマネジメント事業費の主な用途]

- ①「第2回 A-A-A スタートアップシンポジウム～愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知県農業総合試験場によるテック・アート・アグリ DX (法人)」を開催
- ②「第2回スタートアップ国際シンポジウム」をパリ市にて開催
- ③2大学連携研究「データサイエンスによる紙の道の解明」に係る研究補助員の雇用
- ④両大学の学生を対象にアントレプレナーシップ教育の専門家（バブソン大学 山川准教授）を招聘し特別集中授業を実施
- ⑤芸大奏楽堂の無線ネットワーク（Wi-Fi）整備を実施

## 27. 2 大学による連携事業

【法人運営】

### (1) 2 大学による連携

- ・ 本法人の先進的な 2 大学連携研究であり、かつ科学研究費助成事業基盤研究 A に採択された「データサイエンスによる紙の道の解明」が、2022 年度より研究を開始しました（2026 年度まで継続）。
- ・ 2 大学連携促進に関するニーズ調査を実施し、その結果を踏まえた取り組みを 2024 年度に実施予定。
- ・ その他、両大学を対象としたスタートアップ関連事業を実施しました（参考資料 28 参照）。

### (2) 2 大学連携推進会議

構成員（10 名）：理事長、事務局長、次長、法人事務部門長、学長（2 名）、副学長（3 名）、大学事務部門長（2 名）

2023 年度開催状況	議事等
第 1 回（2023 年 9 月 1 日 （金））	令和 5 年度の予定について
第 2 回（2024 年 3 月 22 日 （金））	・ 3 月の常勤役員会と同日開催の予定だったが、常勤役員会が急遽中止となったため中止。 ・ ただし、2 大学が共同で開催する教養教育を検討する WG が発足し、初回の検討会を 3 月 22 日に開催。

### (3) 2 大学連携に関する窓口

両大学教員のマッチングの仕組みとして、2 大学連携に関する研究、その他全般についての相談窓口を次のとおり設置し、周知しています。

	窓 口
県立大学	研究支援・地域連携課 （研究支援担当）
芸術大学	芸術情報・広報課 （研究支援担当）
法人事務局	企画財務課 （2 大学連携全般）

## 28. スタートアップの推進

【法人運営】

愛知県や他大学と連携し、スタートアップの取組を推進しています。

(内 容)

### (1) 愛知県農業総合試験場との連携

更なるスタートアップ創出を目標とした学生意識の醸成を図るため、両大学と愛知県農業総合試験場で「第2回 A-A-A スタートアップシンポジウム～愛知県立大学・愛知県立芸術大学・愛知県農業総合試験場によるテック・アート・アグリ DX (法人)」を12月に開催。

<第2回 A-A-A スタートアップシンポジウム>

- ・ 共 催：愛知県農業総合試験場
- ・ 日 程：2023年12月16日(土)
- ・ 参加者：60名
- ・ 内 容：県大・芸大の教員・学生（神谷教授（県大）、水津教授（芸大）、情報科学研究科大学院生）及び農総試の研究員等による講演の他、県大・芸大の教員・学生及び農総試研究員による研究成果の展示発表を実施

### (2) 愛知県経済産業局革新事業創造部海外連携推進課との連携

フランスの高等教育機関、愛知県経済産業局革新事業創造部と連携し、「第2回スタートアップ国際シンポジウム」を10月にパリで開催。

また、2024年度のSTATION Aiの開所に向けて、開所連携イベントの開催について調整。

<第2回スタートアップ国際シンポジウム>

- ・ 共 催：愛知県海外連携推進課
- ・ 日 程：2023年10月20日(金)
- ・ 場 所：ENSTA Paris (国立先端技術学校 (パリ市))
- ・ 参加者：41名 (会場19名、オンライン22名)
- ・ 内 容：県大・芸大の教員を始め、ENSTA Paris 教授、愛知県海外連携推進課長等による講演の他、講演後には意見交換会及び交流会を実施

### (3) 両大学を対象としたアントレプレナーシップ教育の専門家による特別集中授業の実施

芸大の山川恭弘客員教授（バブソン大学准教授）が講師となり、「アントレウィーク 2023」を6月に実施。

<アントレウィーク 2023>

- ・ 講 師：山川恭弘 愛知県立芸術大学客員教授（バブソン大学准教授）
- ・ 日 程：2023年6月5日(月)～8日(木)
- ・ 対 象：愛知県立大学及び愛知県立芸術大学の学生
- ・ 参加人数：35名
- ・ 内 容：アントレプレナーシップ・ワークショップを8コマ（12時間）実施

(4) 起業家育成プロジェクト「Tongali (Tokai Network for Global Leading Innovators)」

両大学が参加している東海地区の起業家育成プロジェクト「Tongali (Tokai Network for Global Leading Innovators)」(名古屋大学が代表)を通して採択された「研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム (START)」にて、アントレプレナーシップ教育などを実施。

また、同じく Tongali を通じて採択された「高校生等を対象としたアントレプレナーシップ教育(起業家教育)の推進施策である「EDGE-PRIME Initiative」にて、高校生向けのアントレ教育を県立大学、芸術大学それぞれにおいて実施。

<高校生等を対象としたアントレプレナーシップ教育>

(県大)

- ・プログラム:「ジブリパークの隣で考えるアントレプレナーシップ教育」
- ・主 催:次世代ロボット研究所
- ・日 程:2023年10月21日(土)、28日(土)、11月11日(土)、18日(土)
- ・参加者:4日間で延べ85名
- ・内 容:愛・地球博記念公園、次世代ロボット研究所、企業の研究開発現場の工場の見学の他、起業家精神等についてグループディスカッションを実施

(芸大)

- ・プログラム:「サマースクール2023」
- ・日 程:2023年8月7日(月)、8日(火)、22日(火)、9月23日(土)
- ・参加者:16名
- ・内 容:バブソン大学山川准教授と開催している学部生向けアントレプレナーシップ教育とデザイン実技で実施しているアイディエーションメソッドを連携させて開発した高校生向け教育プログラム(ワークショップ)を実施



## 29. 事務職員の育成（海外・他機関派遣研修）

【法人運営】

### （概要）

短期海外研修は、職員に海外研修の機会を提供し、国際的な資質や見識を高め、国際交流関係業務の運営や本法人研究者の国際的教育研究活動の支援を円滑に行うことができる事務職員の育成を目的としています。

他機関派遣研修は、法人の将来を担う人材の計画的かつ効果的な育成を図るため、法人以外での実務を経験させ、外部で学ぶ刺激を得ることで当該職員の視野の拡大を図るとともに、外部職員の交流受入を行うことにより、組織の活性化を図っていきます。

### （内容）

#### （1）短期海外研修

##### ① 対象

本研修に参加したことがない事務職員（プロパー職員）のうち、本研修に対する参加意欲があり、派遣することが適当であると所属する課の課長が認め推薦した者。

（ただし、研修内容によっては語学力等の要件を追加する。）

##### ② 研修の種類

- ・名古屋大学事務職員の短期海外研修に参加し、名古屋大学の学術研究拠点及びそれに準ずる拠点、または教育研究機関を訪問する。
- ・本法人で実施する国際交流関係業務に同行し、教育、研究支援、国際交流等の推進に必要な知識を習得するために業務の補助を行う。

#### （2）他機関派遣

##### ① 対象

過去に他機関へ研修生等として派遣されたことがない事務職員のうち、原則、当該年度末時点の年齢が35歳以下の主事・主任級職員であり、現所属における勤務年数が今年度末時点で1年9か月以上である者

##### ② 研修の種類

- ・文部科学省実務研修  
実務研修生として勤務し、配属先が作成する研修計画に基づき、業務に従事する。
- ・名古屋大学派遣研修  
研修として出向し、大学運営の実務を習得させるとともに、大学間の情報交換及び人的交流を行う。
- ・愛知県派遣研修  
研修生として出向し、地方行政の実務を習得させるとともに、愛知県との情報交換及び人的交流を行う。
- ・一般社団法人公立大学協会派遣研修

研修として出向し、公立大学及び国の高等教育制度を習得させるとともに、大学及び文部科学省等との人的交流を行う。

(3) 各研修の実績

【短期海外派遣】

	年度	所属	課	職級	研修先	期間
1	2015	県立大学	県大総務課	主事	タイ	H27. 11. 3～8
2		県立大学	学生支援課	主事	モンゴル	H27. 9. 12～17
3		県立大学	学務課	主任	中国	H27. 7. 18～24
4		法人事務局	人事課	主任	同上	同上
5	2016	県立芸術大学	芸術情報・広報課	主任	カンボジア	H28. 11. 21～25
6	2017	法人事務局	情報課	主事	タイ	H29. 11. 13～17
7		法人事務局	経営企画課	主事	シンガポール	H30. 3. 24～29
8	2018	県立大学	学務課	主事	スイス	H30. 9. 10～16
9	2019	県立大学	研究支援・地域連携課	主任	タイ	R1. 9. 24～29
10		県立芸術大学	学生支援課	主事	米国	R1. 11. 17～22
11	2022	法人事務局	人事課	主事	米国	R5. 1. 24～29

※所属・職級は派遣当時のもの

※退職者は除く

【他機関派遣】

	年度	派遣前所属	課	職級	研修先	期間
1	2016	県立大学	県大総務課	主事	名古屋大学	H28. 4. 1～H30. 3. 31
2	2017	県立大学	守山学務課	主任	愛知県	H29. 4. 1～H30. 3. 31
3	2018	法人事務局	総務課	主事	文部科学省	H30. 4. 1～H31. 3. 31
4		法人事務局	契約課	主事	名古屋大学	H30. 7. 1～R2. 7. 31
5	2020	県立芸術大学	芸術情報・広報課	主事	名古屋大学	R2. 8. 1～R4. 6. 30
6	2021	法人事務局	人事課	主査	愛知県	R3. 4. 1～R4. 3. 31
7		県立大学	研究支援・地域連携課	課長補佐	公立大学協会	R3. 4. 1～R5. 3. 31
8	2022	県立大学	戦略企画・広報室	主事	愛知県	R4. 4. 1～R4. 10. 31
9		法人事務局	人事課	主事	文部科学省	R4. 4. 1～R5. 3. 31
10		県立大学	入試課	主事	名古屋大学	R4. 7. 1～

※職級は派遣当時のもの

※退職者は除く

職員現員数のうち、派遣研修経験者（退職者を除く）の割合

研修実績（2024年3月時点）	合計	職員数※	割合
	21	80	26.3%

※3月時点のプロパー現員数（育休・休職者除く）

**【2024 年度の予定】**

- ・ 短期海外研修…2024 年度 5 月現在、派遣予定は未定。
- ・ 他機関派遣…東海国立大学機構（名古屋大学）へ派遣（1 名、2022 年 7 月～2 年間）